

APU-Club

国内学生父母の会だより

2005
March

Vol.02



ご挨拶	1
総会報告	3
地域懇談会報告	5
就職状況	7
留学制度	11

奨学金	15
課外活動	17
寄贈品	19
Q&A	20



APU-Club・国内学生父母の会 会長
谷本 良平

APU-Club・国内学生父母の会の会長の谷本良平でございます。

2004年度会報発刊にあたり一言ご挨拶をさせていただきます。

この国内学生父母の会も3年目を迎え、APUの国内学生諸君の様々な活動を支援するため、いろいろな事業を実施してまいりました。

大学側のご努力もあり、皆様が一番気にかけておられる就職につきましても、お陰様で2004年度は内定率96.2%に達し、APUの教育は各企業から大変高い評価を得ております。父母の会としても就職活動への支援はさらに充実していきたい所存であります。

また、総会や各地域での懇談会におきましてご意見の多かった国際学生とのより積極的な交流活動や英語力の向上にむけても、大学側と協力して国内学生の英語力UPのため、様々なプログラムを検討中であります。

父母の会会員同士の相互交流も懇談会等を通じ徐々に輪が広がりつつあります。皆様との活発な意見交換を通じ、学生の学業、あるいは生活支援に対し、より広範で意味のある父母の会活動を模索していきたいと考えておりますので、この会報誌を通じ、さらにAPUの活動を知っていただき、ご意見を賜れば幸いです。

APUの教育と発展に更なるご理解とご支援いただくようよろしくお願いいたします。



立命館アジア太平洋大学 学長
APU-Club・国内学生父母の会 名誉会長
モンテ カセム

立命館アジア太平洋大学は、開学5年目を迎えました。APUは日本の若者の異文化理解と言語の運用能力を高め、時代の変容、即ちグローバル化や地域統合などの促進に対応できる人材を養成することを目指しています。

APUの試みは既に数多く結実しています。学生はAPUの多言語・多文化環境の下で、言語運用能力だけでなく、異文化間のコミュニケーション能力を身につけています。2003年度にはこの多言語環境における日英二言語教育システムにより、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されています。また、2004年10月には国連大学、International Peace Academyとの共催で国際秩序の形成を目指す会議を開催し、APU学生も世界の一流の専門家と意見交換し、自らの視野を広げました。このようにAPUの画期的なマルチ・カルチュラルキャンパスの下で、学生はその能力を存分に伸ばし成長しています。そして2004年度のAPUの就職率は96.2%と高い水準を誇っており、これは社会から高い評価を得ている証です。

これら学生の成長を支えていただいているのは他でもないAPU-Club・国内学生父母の会です。生活面、学習面だけでなく、就職、課外活動など多岐にわたる会からの支援活動により、学生は安心して充実した生活を過ごすことができています。皆様のご理解とご協力で深く感謝するとともに、今後とも引き続きご支援賜りますようお願いいたします。



APU韓国父母の会 会長
金光勲

APU-Club・国内学生父母の会会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。私は立命館アジア太平洋大学の韓国学生父母会の会長、金光勲と申します。

今年、立命館アジア太平洋大学は開学から5年目を迎えることになりました。大学関

係者の皆様と学生のたゆまぬ努力によって、日本国内にとどまらない、世界の名門大学へと成長を遂げており、私共も嬉しく思っております。

APU韓国父母の会も、5年前の開学時、韓国学生の入学とともに結成されました。会の構成は二段階に分かれており、まず、入学年度毎のグループがあり、それぞれ会長一人、副会長、総務、監査、理事及び各地域支部長をおいています。次に全体の父母の会として、会長一人と入学年度毎のグループから選出される副会長、総務などがおります。父母の会の主な活動は、韓国の学校におけるAPUの広報支援と、父母同士の親睦です。これまで、多くの優れた学生がAPUを志願するよう、各学校へAPUの広報を行ってまいりました。今後は、学生の卒業に備え、就職活動支援として、多くの企

業へAPUならびに学生の優れた点を広報することを計画しています。このような活動は始まったばかりで、目立った成果はわずかですが、今後、活性化したいと思っております。

APU-Club・国内学生父母の会の活動を昨年の会報で拝見しました。活発で優れた活動に敬意を表しますとともに、活動の成果を通じて更なる発展を遂げますことを期待しています。また、そのような活動は海外の父母の会にとっても、見習うべき良い模範になると思っています。今後、各国の父母の会がネットワークを作り、交流の促進が進むとともに、相互に協力できる関係を築いていければと願っております。

最後になりましたが、APU-Club・国内学生父母の会、および海外各国における父母の会の発展と、各会員様のご家族の健康とご多幸をお祈りしております。



APUインドネシア父母の会 会長
Ita Tundjung

国内学生父母の会のみなさま、お久しぶりです。皆様におかれましては元氣でお過ごしのことと存じます。インドネシアの父母の会を代表して、ご挨拶申し上げます。まず、国内学生父母の会の2004年度の会報の発行について、お祝い申し上げます。

APUインドネシア父母の会は、入学 Semester毎に父母の代表を1名選出しています。この代表者は、各 Semesterごとの父母グループをまとめており、会員の皆さんの積極的

な参画を期待しているところです。今年新たに9人目の代表が選出されました。2004年春 Semester入学者の父母から、Mrs. Andri Gatutが代表者になりましたので、ここにご紹介させていただきます。

我々の活動についてご紹介しますと、入会者が増加しているため、会員からの質問を吸い上げたり近況を報告したりすることが年2回の会合では困難になりました。このため、現在では年間4回、会合の場を設けています。

会合は通常、レストランや喫茶店、またはどなたかの自宅で行われ、20名から30名の父母が出席されます。APUの近況を知りたい方や、他の父母の方との情報交換を希望される方が主にご参加くださっています。

最後になりましたが、みなさまのご健康とご多幸をお祈りしております。

Hisashiburi, minasama ogenki desuka?
Warm greetings from Indonesia for all of you. Hopefully you are all in good health. On behalf of The APU Indonesian Parents Association, I would like to congratulate on

the second publication of The APU-Club Domestic Students' Parents Association Bulletin.

The APU Indonesian Parents Association designates one representative from each class which appointed by all member. This representative will be connecting all the members so we expect the active participation from the members. In this opportunity, I would like to introduce you, the new representative from class of 9, Mrs. Andri Gatut.

By increasing new members, the social gathering which usually be held twice a year can't absorb more questions and information from the members, so we decided to hold the social gathering every three months.

The social gathering is usually being held in cafe, restaurant, or one of the member's houses which being attended by 20 or 30 members. The members who come are the one who need new information from APU's activities and the one who want to share their experiences. Thus all information about our activities.

Lastly, please accept my best wishes for all of your continued good health, happiness, and success.



2004年4月24日(土)、「APU-Club・国内学生父母の会」総会が全国より173名の参加の中、開催されました。

当日は「APU-Club・国内学生父母の会」谷本良平会長の挨拶に始まり、今年度より立命館アジア太平洋大学学長に就任されたモンテ・カセム学長の挨拶および近況報告、「2003年度事業報告および2004年度事業計画」の説明等がありました。

全体説明会では、学生生活・就職状況など大学側の近況報告、えびすだに学園祭実行委員会「Baseイベント」代表の戎谷将平さんの活動

報告があり、熱心に聞き入る父母の姿が見られました。

全体説明会終了後は、当日行われていた新入生歓迎の学園祭(新歓祭「ピカピカ」)を見学される方や、学習・生活・進路就職と相談内容別に担当オフィスが応じる個別相談会に参加される方もいらっしゃいました。さらに父母同士の交流を深める懇親会は、子どもの進路・近況など、お互いの情報交換の場として役立つという声も多く出ていました。

学長挨拶及び近況報告



モンテ カセム 学長

本学は開学から4年目を迎えた2004年3月、第1期生を輩出することができました。また、今後1年間色々なこととお世話になりますが、どうぞよろしくお願ひ致します。

現在、日本を含め世界73カ国・地域*から学生を受け入れ、約1800人弱の留学生がAPUで学んでいます。本学を設立する際、学園の構想として、高等教育の国際化、学生ならびに大学の海外進出、そして、人と人の間にしか生まれない付

加価値の高いものが今後の大学に求められるであろうと予測しました。その結果、教育・研究・企業間の垣根がなくなり、年齢・国籍・性別を問わず人々が共に学ぶ時代になると確信し、先進的な取り組みとしてAPUをスタートさせました。

創造性豊かな人材を求める現代、本学の優位性を考え、そこに特化して学生を成長させていかなければなりません。具体的には、学生の文化的な背景の多様性などを活用し、海外の研究機関への学生派遣や海外フィールドワークの実施等を考えています。

APUを世界有数、そして将来に向けて創造豊かな人材を育成する場とするため、父母の皆様のお力添えは限りなく支えになります。今後ともよろしくお願ひ致します。

*2004年4月1日現在

学園祭実行委員会 Base イベント代表挨拶



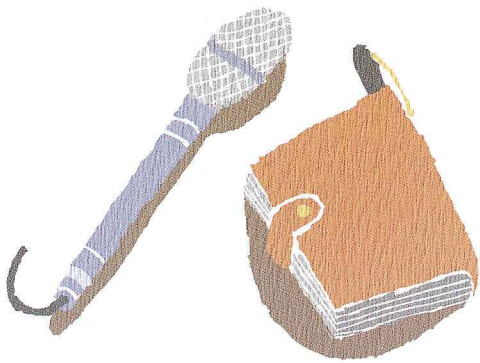
戎谷 将平さん (APM3回生)

初めに、父母の会のご支援で本日の新入生歓迎祭を開催できたことにお礼を申し上げます。

私たち「学園祭実行委員会Baseイベント」は、この新歓祭や学園祭の定期的な開催を目的に設立された委員会です。昨年11月には「第1回 天空祭」を開催しました。APUにとってどのような学園祭にしたら良いかという点から、「リトルワールド」をキーワードに、これにふさわしい内容を検討しました。このキーワードには

様々な国から来ている国際学生と共に学園祭を作りたいという思いも込められています。国際学生にも主旨を理解してもらい協力を呼びかけ、当日は各国の展示や多国籍の郷土料理が並ぶ模擬店を出店し、2日間で1万人を超えるみなさんが来場しました。終わってみて、実行委員だけでなく、国内学生・国際学生、地域の方々、教職員、そして父母の会の皆さんの協力がなければ出来なかったことだと改めて実感しました。

年々、課外活動は活発化しています。私たちが学園祭というより良い「発表の場」を作ることで、より良い大学作りにつながるでしょうし、私たちの成長がAPUの成長につながると思っています。そうした思いでこれからも頑張っていきますのでご支援をお願いします。



学修・学生生活について



仲上 健一 副学長

入学した日本人学生の多くは、多文化環境に驚き、受験ではない、自分の能力を伸ばすための勉強に真剣に取り組めます。中でも授業の半分近くに充てられる英語で専門分野を学ぶことは、留学並みの厳しさが問われます。この「多言語教育における日英二言語教育システム」は、2003年度文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されました。私立大学の採択率は6%で、西日本の四年制私大ではAPUのみの実績

を誇ります。さらに、今年的好調な就職状況によって、優れた教育システムが実証された形となり、九州だけでなく関西や関東でもAPUへの注目が高まっています。

また、学生の授業に対する熱意やコスト意識が非常に高い背景には、履修科目数に応じて授業料を支払う制度や、教えるだけでなく、一緒に討論しプレゼンテーションを行なう充実した授業内容があります。

各科目の評価は、出席や小テスト、レポートなど毎日の授業を細かに点数化し、比重が50%以内の期末試験と合わせて総合的に評価されます。評価された数値の平均はGPAと呼ばれ、GPAの高い学生には大学から表彰しています。学修への目標を明確にすることで、学生の成長を促したいと考えています。



山神 進 学生部長

「学生生活アンケート」は、年に1度全国の大学で実施されています。他大学生と比較して、突出するのは勉強時間の項目で、授業以外に平均2時間から3時間という結果が出ています。5月の連休も授業を行いますが、ここでの頑張りが自己の成長に繋がっているのです。ある女子学生は、「入学当初、他大学とは全く違った環境に戸惑った。しかし、1年生の終了時には、パワーポイントを使ってプレゼンテーションし、自分の考えを言

えるようになった。4年間の学修で実力がつき、本当に良かった」と、話してくれました。

学生生活の中では苦しいことも多々ありますが、授業への意識の高い留学生に触発され、「自分もやらねば」と取り組んでいるようです。父母の皆様には、学生を励ますなど、精神的な面での応援をお願いします。

また、学生部では77*の正課外活動(クラブ活動)を支援しています。学生達は多文化環境の中、互いの価値観の相違に、フラストレーションを感じる一方、それを乗り越えることで、互いを知り相互理解を深めていくのです。加えて、APUでは大分県内との地域交流も進んでおり、学生は様々なイベントに参加して、活力ある地域づくりの一翼を担っています。

*2004年4月1日現在



ご参加いただいた父母の皆様にお話を伺いました。



津山 様ご夫妻
福岡県/APS2回生

入学当初は勉強に苦しんでいた娘も生活のリズムに慣れたのか、現在は積極的に体育祭実行委員も務めているようです。世界中から生徒が集まるAPUという環境の中で、好きなことを見つけて楽しんでいる娘の姿を嬉しく思います。私達も総会に参加することでAPUをより理解し、娘とのコミュニケーションに役立てています。



堀越 秀雄 様
大分県/APS2回生

APUの”受験勉強ではない、能力を伸ばすための勉強”を通じ、息子も自分の関心のある分野の勉強を積極的に出来ているようです。大学の特性からも国際社会へ進む生徒が多いと思いますが、世界を見る前に、まず大分のこと、そして日本のことをしっかりと知って欲しい、それが国際化への第一歩に繋がっていくと思います。



大迫 久美子 様
福岡県/APM1回生

『開かれた大学』と聞いていましたが、総会で先生方の話を聞くことで「なるほど!」と納得できました。多言語文化環境という特性を活かし、さらに世界に求められる大学になって欲しいですね。我が子にも、自立への第一歩である大学生活を通して、自分から積極的に情報を発信できる人間へと成長して欲しいと思います。



林 様ご夫妻
京都府/APM1回生

子ども達や先生方はもちろんですが、父母の方々の熱心な姿、志の高さには驚かされました。授業は大変なようですが、様々な国から集まる留学生と接することは毎日が新鮮なはず。今まで子どもっぽかった息子も、顔つきが変わり凛々しくなっていたのに感動です。APUには将来への選択肢を広げられる教育を期待しています。



中嶋 和美 様
東京都/APM1回生

パンフレットだけでなく、直に話を聞くことでAPUの方針や子ども達の生活の様子などがよく理解できたと思います。大学とは「人と人の繋がりがから学び合うもの」という学長先生の言葉に共感。仕事でも何でも人間性は大事ですから、子ども達もその大切さを学び、積み重ね、将来に生かしてもらいたいです。



猶迫 洋子様
大分県/APS4回生

総会でのお話は、日頃娘が話してくれる内容と照らし合わせながら聞きました。その後の相談会や懇親会では、皆さんと情報を交換したり相談したりと、さらに深く理解することができました。娘は来年卒業します。将来を見据えた環境と徹底された教育システムに始まり、何をすべきかを自分で考える。それが学べた大学という印象です。



2004年度の地域懇談会は全国7会場(北海道・東京・京都・大阪・福岡・熊本・大分)で開催され、多くの会員の皆様にご出席いただきました。以下に福岡会場の模様をご紹介します。

大学挨拶



薬師寺 公夫 副学長

昨年度に引き続き、今年度も文部科学省の「特色のある大学教育支援プログラム」に選ばれるなど、開学からわずか4年間で、本学はその実績を確実に残してきたと言えます。当プログラムの「仕事で英語が使える日本人の育成」というテーマに、本学は「Student Mobilityの推進」という課題で応募し、採択されました。

日本人学生は、多言語・多文化環境の中で国際学生と共に学修し、異なる文化や価値観への理解を深め、相互の議論を通じて切磋琢磨しています。「Student

Mobilityの推進」は、このようなAPUのキャンパス環境と二言語教育システムを基盤としつつ、さらに専門的な知識と力量をアップし、これを英語運用能力と結合して英語で仕事ができる有為の人材を育むことをねらいとしています。

「Student Mobilityの推進」では、スキルとしての英語教育の質的向上、英語による専門科目の学習とともに、海外学習プログラムの展開を3本柱とする計画です。海外学習プログラムでは、交換留学、言語研修、フィールドワーク、海外インターンシップ、国際学生会議など、正課外を通じてより実践的な海外学習経験の場を提供していく計画です。

このような新しい取り組みを通じて、一層の教育の質の向上に励みますので、今後とも父母の皆様にはご支援を賜りますようお願い致します。

近況報告



中野 雅博 教学部長

学生だけでなく、父母の皆様の中にも大学へ入学するまで受験偏差値が一番に考えてきた方がいらっしゃると思いますが、入学後は進路の目標を考えることが重要です。卒業までの4年間をどのように過ごし、卒業後はどのような世界で活躍したいのか。具体的な目標を持って学修に臨み、学生生活を充実させてください。

そして、大学側も学生の教育方法を問われている時代です。私共は、これから世界で活躍する人材をどのように育成するかに重点を置き、教学に取り組んでいます。好調

な就職実績を背景に、本学への期待も高まってきており、オンキャンパス・リクルーティングでは、120社を超える企業の方々に来学して頂きました。

さらに国際交流への取り組みとして、学生の積極的な海外留学を促進し、1年間で800人という在学生全員に海外留学を経験させ、多文化環境へ飛び出すきっかけを作っていきたいと考えています。



内定先『株式会社日立製作所』

就職活動
体験談

福岡県出身
久我知也さん



元々は金融志望で、保険や証券、銀行を中心に活動していましたが、やりたい仕事が見えず、なかなかうまくいきませんでした。それをきっかけに就職活動の取り組み方を改善し、積極的にセミナーへ参加して幅広い企業を自身の目で見ようと心がけました。企業側の説明を聞き、「ここでなら働きたい」と思える企業の試験を日程の合う限り受験し、その中で最も就職したいと思っていた企業から内定をもらうことが出来ました。

各企業の面接試験では、突然「プレゼンテーションをして下さい」と課題を出されることがありましたが、APUでプレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどを経験し、その一つひとつが面接時に役立つという印象です。人の意見を聞き、それに対して自分の意見を述べるという、APUの4年間で学んだことが身を結んだと感じています。また、国際学生とふれあうことで、多様な価値観、言語能力が身につく、それが自信に繋がったと思います。

内定先『立命館アジア太平洋大学』

就職活動
体験談

熊本県出身
金子祐輔さん



私は九州を中心に就職活動を展開していました。運良くいくつか内定も頂きましたが、最終選考で不採用になって悔しい思いをしたこともありました。就職活動を振り返ると、2,3回生時のキャリアディベロップ講座やビジネス理解、トップ講演会などに参加していたことが、自分のモチベーションを高められた理由だと感じています。特にトップ講演会では、企業の第一線で活躍されている経営者の話に刺激され、自分も将来頑張ろうという気持ちになりました。国際学生との意識の違いを目の当たりにし、集団で行動することの難しさを学んだ1回生時からのプレゼンテーション。そして、大学の授業をサポートするTA(ティーチング・アシスタント)の経験など、自分の知識や考えを他の人に伝える機会を重ねる度に、表現力が身についたと感じています。APUでの生活は本当に大変な面もありましたが、それらを乗り越え、成長へとつなげられた全ての経験が、今では私の財産となっています。



ご参加いただいた父母の皆様にお話を伺いました。



高群 正春 様
熊本県/APU4回生

高校時にアメリカへ1年、APU在学中に台湾へ1年留学し、就職も今まで学んできた英語や中国語を生かせる職業をと、東京で就職活動を行いました。娘自身が活動中の不満などを本音でぶつけてくれたので、親として人生の先輩として相談に乗ることができました。これからの人生、妥協はせず、自分の人生を切り開いて進んで欲しいですね。



玉木 由美子 様
福岡県/APU1回生

初めての父母会参加でしたが、先生方をはじめ在学生の話聞くうちに安心感を持つことができました。まだ若い大学ながら、常に先を見ることで成長を続けている大学という印象。息子は今年の9月に入学し、たくさんの留学生が刺激になっているようで、積極性が高まり生き生きとした姿を見せてくれるようになりました。

今年度の特徴

2004年度の内定状況をご紹介します。

就職内定状況について

昨年度の卒業生の就職は、昨今の厳しい雇用情勢の中でも大健闘し、日本人学生・留学生ともに好調な成果を収めました。APUの環境で培われた学生の積極性・コミュニケーション力などは企業に高く評価され、今年度も多くの4回生が理想の進路を実現させています。

本学2004年度卒業生の内定率は96.2% (2005年2月28日現在)、また、上場・大手率(公務員・法人等を除く)も73.0%にのぼり、昨年同時期より14%以上の伸びを示しています。本学ではキャリア・オフィスを中心に、学生の就職活動を全面的にサポートしており、就職ガイダンス・企業講演会・"オンキャンパス・リクルーティング"・個別相談・求人票の掲示・資格試験対策を行うエクステンション講座(初級システムアドミニストレータ・MOUS(ワード・エクセル)・簿記2級・3級・TOEIC)など幅広い支援を行っています。

本学の就職活動の特徴として、企業や団体の人事担当者の方々に直接来学頂き、学内でAPU学生のみを対象に、説明会・面接等の選考を実施する「オンキャンパス・リクルーティング」に取り組んでいます。今年度のオンキャンパス・リクルーティングは140件を超え、大手企業を中心に延べ100名以上が内定を得ており、APUの内定者全体の3割を占めています。

2004年度APU就職内定報告状況 (2004年12月31日現在)

●全体

	男子	女子	計
就職希望者	159人	178人	337人
内定報告者	155人	169人	324人
内定率	97.5%	94.9%	96.1%

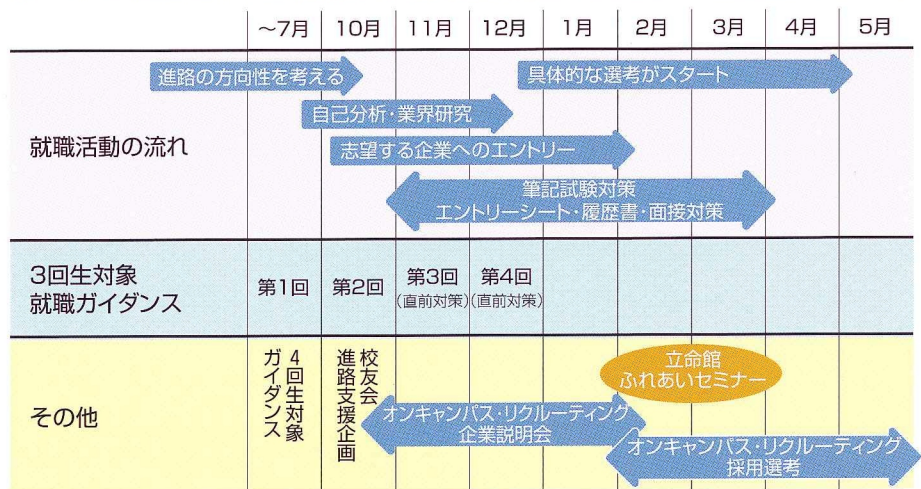
●国内学生

	男子	女子	計
就職希望者	103人	133人	236人
内定報告者	100人	126人	226人
内定率	97.1%	94.7%	95.8%

(参考) 私立大学(四年制)就職内定率 全国74.3%/九州地区 65.7%

文部科学省・厚生労働省調べ「平成16年度卒業予定者の就職内定状況調査(2004年12月1日現在)」より

就職活動スケジュール



2004年度主な内定先企業・団体 (2004年12月31日現在)

アサヒビール(株)	リンナイ(株)	(株)西日本新聞社	(株)明電舎
アデコ(株)	大分キヤノン(株)	日興コーディアル証券(株)	矢崎総業(株)
アメリカンファミリー生命保険会社	日本生命保険相互会社 福岡支店	日本オルガノン(株)	ヤンセンファーマ(株)
石川島播磨重工業(株)	アコム(株)	日本電産シバウラ(株)	楽天(株)
(株)大分銀行	(株)オーイーシー	日本電産リード(株)	(株)リクルート
オムロン(株)	クラリオン(株)	日本マクドナルド(株)	リゾートトラスト(株)
オリックス(株)	アイシン精機(株)	日本旅行(株)	ロート製薬(株)
(株)カネカ	イオン(株)	(株)NOVA	YKK AP(株)
関西ペイント(株)	イオンクレジットサービス(株)	バイエル薬品(株)	ANAセールス&ツアーズ(株)
キッコーマン(株)	いちよし証券	浜松トニクス(株)	ダナキャランジャパン(株)
九州電力(株)	(株)伊予銀行	(株)光通信	三菱商事石油(株)
三洋電機(株)	(株)エイチ・アイ・エス	日立機電工業(株)	(株)読売ツアーサポート21
(株)ジェイティービー	SMBCフレンド証券(株)	日立建機(株)	(株)NHK文化センター
(株)滋賀銀行	オリックス・オート・リース(株)	日立マクセル株式会社	(株)大分航空トラベル
住友信託銀行(株)	オリックス信託銀行(株)	(株)日比谷花壇	大分全日空ホテル オアシスタワー
全日本空輸(株)	空港グランドサービス(株)	広島信用金庫	(株)地域科学研究所
ソニー(株)	(株)公文教育研究会	(株)ファミリーマート	(株)テレビ大分
東急建設(株)	クラブツーリズム(株)	(株)ファンケル	北陸セキスイハイム(株)
東陶機器(株)	小松フォークリフト(株)	フジパン(株)	三井物産スティールトレード(株)
東レ(株)	五洋建設(株)	ホクレン農業協同組合連合会	八鹿酒造(株)
凸版印刷(株)	(株)サトー	北海道リコー(株)	海洋研究開発機構(JAMSTEC)
西日本旅客鉄道(株)	サンスター(株)	(株)ホテルメトロポリタン	鉄道建設・運輸施設整備支援機構
ニチコン(株)	(株)CSK	本田技研工業(株)	財団法人 休暇村協会
日産自動車(株)	(株)JALスカイ九州	(株)毎日新聞社	大分県警察本部
日本生命保険相互会社	鈴江コーポレーション(株)	マブチモーター(株)	国家公務員II種
野村証券(株)	スタンレー電気(株)	丸八真綿	別府市役所
(株)日立製作所	住友ゴム工業(株)	三井化学(株)	学校法人立命館
富士通(株)	住友電装(株)	三菱証券(株)	
(株)三井住友銀行	ソフトバンクBB(株)	三ツ星ベルト(株)	
三菱化学(株)	ダイハツ工業(株)	(株)宮崎銀行	
(株)村田製作所	ダイヤモンドリース(株)	明治安田生命保険相互会社	

父母の会の就職活動支援

父母の会では、学生のニーズに応える様々な就職支援を実施しています。

支援事業の紹介

1 キャリアアドバイザー・ ジュニアアドバイザー懇談会

APUもしくは立命館大学を卒業し、既に社会で活躍している卒業生と、4回生内定者を迎え、就職活動を始める3回生へ講演や就職活動体験報告を実施しています。学生にとっては、同級生・先輩とのネットワークが生まれる機会であると共に、志望業種に関する業界研究を始める契機となります。父母の会からは、当懇談会の講師の交通費・宿泊費・謝礼を支給しました。

参加学生の声

*アンケートより抜粋

- *少人数のガイダンスで、質問がしやすかった。これまで以上に良いガイダンスであった。
- *学生時代の様々な経験が就職に非常に重要であるということが先輩の話からよくわかった。
- *同じ3回生同士の様子もわかり、勇気づけられた。
- *ほとんどの先輩が「就職活動は楽しかった」と言っていたことに驚いた。

2 筆記試験 (SPI) 対策講座

就職活動で大きな難関となる筆記試験は、早い段階で問題の解き方を理解し、問題に慣れる必要があります。その対策講座として、学研メディアコンより講師をお招きし、2つの日程に分けて模擬試験および解説にかかわる講座を実施し、239名が受講しました。父母の会ではこの講座の委託費を支援しています。

3 プレゼンテーションガイド作成

学生が就職活動を行う際に必要な情報を満載した冊子を作成しました。就職活動の進め方、自己分析、OB・OG訪問の方法、エントリーシートの書き方、自己PRや志望動機のヒントまで、就職活動のあらゆるステップで参考となるポイントが詳細に書かれています。父母の会では、冊子作成費用を補助しました。

4 就職関連書籍購入

父母の会から就職資料室へ年鑑、総監、総覧などの書籍を寄贈し、学生へ提供する就職関連情報の充実を図っています。

5 キャリア・ディベロップメント支援

別府で暮らす学生にとって、都市部や地元で就職活動やインターンシップを行う際にかかる費用は大きな負担となります。父母の会では就職活動・インターンシップにかかる交通費・宿泊費の一部補助を行っています。

6 立命館大学就職企画 「ふれあいセミナー」への APU学生の参加

父母の会では、立命館大学での「ふれあいセミナー」（企業の人事担当者による説明会）へ参加する本学学生の旅費・滞在費の支援を行っています。特に2月・3月には、この「ふれあいセミナー」に企業・団体約500社が参加する予定です。キャンパスにいながらにして多くの企業の話を知ることができます。

7 立命館大学就職企画 「キャリアアドバイザー懇談会」 「国際機関・団体キャリア アドバイザー懇談会」 「女子学生就職DAY」への APU学生の参加

創立以来、立命館大学の卒業生は25万人を数え、本学の卒業生では未だカバーできない幅広い業界で活躍されています。この企画では立命館大学の卒業生から、業界や企業の「生きた情報」と実践的なアドバイスを受けることができます。「キャリアアドバイザー懇談会」では、民間のトップ企業はもとより、公務員や公共団体・福祉関係機関職員など、幅広い業界から2日間で延べ約200名の卒業生が参加しました。「国際機関・団体キャリアアドバイザー懇談会」では、JICA・JETRO・世界銀行など国際機関に勤務する卒業生から、在学中の勉強方法、採用試験への準備、採用後の業務などについて紹介が行われました。「女子学生就職DAY」では、総合職だけでなく、一般職希望者への個別相談も行い、女子学生それぞれのライフスタイル・働き方に応じた進路相談が実施されました。この3企画に本学からは延べ300名以上の学生が参加する盛況で、学生の就職活動に対する意識の高さがうかがえました。父母の会では、この企画へ参加する学生に対し、立命館大学への交通費を補助しました。

参加学生の声

*アンケートより抜粋

- *少人数で話ができたと、APUに対してもすぐ親身になってくれてうれしかった。
- *その会社の悪い面も正直に答えて下さって、とても参考になった。
- *特定の業種に対する先入観を取り除き、自らの選択肢を広げるのに、大変有効なものになった。
- *OGの方ならではの就職のポイントや業界の旬な話題など、生の情報を直に伺い、とても励みになった。
- *自社に限らず、就職活動を全体像としてとらえるようにサポートしてくれたのすごくありがたい。
- *会社や仕事についてだけでなく、就職活動についてもアドバイスをもらえた。合同セミナーや会社説明会では聞けないアドバイスを頂いた。
- *同じ会社でも部署によって仕事の内容が違う、希望している部署になかなか入れないといった話も聞いて、就職後の苦勞も伝わってきた。しかし一番印象的だったのは、みなさんととても生き生きと話をされていて、仕事を楽しんでいる感じがした。
- *あれだけの質と量の企業をAPUに呼ぶのは非常に難しいと思うので、この機会に参加できてよかった。
- *内容も充実したもので、今後も後輩のためにAPUの伝統として続けて欲しい。
- *APUでは大規模な就職セミナーになかなか出席しにくいので、今回のような企画は本当にありがたい。今まで希望していた業界だけでなく複数の業界の方々のお話を聞くことができ、自分の性格に合った業界、仕事内容とは、ということを考える良い場となった。
- *APU以外の大学生の就職活動に対する気合を知ることができてよかった。
- *普段、他大学の学生の様子を知る機会がほとんどない中、体力的にも精神面においても非常に救われた。船やバスの中で就職活動についての話を友人やキャリアオフィスの方として、新たな友人ができた。個人で懇談会に参加する以上に、ツアーに参加したことでモチベーションも上がった。支援を継続していただきたい。心より感謝している。
- *みんなすごく真剣で、自分も将来について本気で考えるようになった。先輩が後輩を導いてくれるこのようなシステムに興味深く感じた。

実際に就職活動を行った4回生の皆さんの声をご紹介します。

凸版印刷株式会社内定

真殿 紘輔さん (APM)



最初はメディアのコンテンツ、コンピューターグラフィックに関心がありましたが、自己分析を行って「自分は表現する仕事が好き」「自己の表現で何か感じてもらえる仕事がしたい」ということが分かってきました。そこで広告代理店やディスプレイ、印刷などクリエイティブな業界、企業に絞っていきました。

首都圏での就職活動

APUで学んだプレゼンテーション能力が大きく役に立ちました

私は1月まで自主ゼミのイベントに注力していたため、就職活動といえばインターネットの就職用サイトに登録する程度でした。1月下旬から2月まではエントリーシートの作成や各企業へエントリーして、2月頃から数社の面接や筆記試験がスタート。筆記試験は問題が難しいというよりも、制限時間内に効率良く解くことが求められます。先輩から、解法のコツや頻出問題が載っている本(SPI友の会)を薦められ、筆記試験の準備を行ったのもこの時期です。

3月から大阪で就職活動を始めました。しかし、先輩から首都圏で活動した方が様々な企業を見ることができるとアドバイスをもらい、また同級生も東京で就職活動を行うと聞いて、拠点を東京へ移しました。確かに東京でしか採用を行わない企業もあり、東京の方が採用ニーズが高いと感じました。その際、キャリア・オフィス紹介の寮に住んでいたのですが、他のAPU学生も利用していて、気軽に就職活動について話し合える仲間が近くに居たことはプラスだったと思います。

3～4月は企業側の採用活動がピークです。一日2、3社回ることもあり、スケジュールがバッティングしてどちらかを選ばなければいけないこともありました。私の場合、エントリーした企業は30～35社、筆記試験を受けたのは20～25社、面接を受けたのは15～16社になりました。結局、4月に数社から内定を得て、就職活動を終えることができました。

就職活動を通して思ったのは、APUで学んだプレゼンテーション方法やレポート作成が役に立ったということです。プレゼンテーションの準備は他人の意見を聞いて整合しまとめる力が必要で、集団の中で自分の長所を生かすような経験を積みます。一次面接で多く実施されるグループディスカッションでは、まさにAPUでの経験が生かせたと感じました。また、APUの多文化環境の中、自己主張のはっきりした留学生の意見を受け入れたり、ぶつけ合って最善の方法を探すという経験が自分をひと回り大きくしたと思います。

両親は企業について特に何も言いませんでしたが、有名な企業から最初の内定をもらい喜んでる自分に「10年後、20年後の自分を見据え、その会社で働いていけるのか、よく考えてみては」とアドバイスをくれました。そのお陰で1社の内定に浮き足立つことなく最後まで粘り強く活動しようと思ったことを覚えています。

株式会社 エフ・ティー・シーホテル開発 (大分全日空ホテル オアシスタワー) 内定

村田 麻衣子さん (APM)



2003年の夏セッションで大分全日空ホテルのインターンシップに参加しました。もともと九州圏内、特に地元就職を希望していました。県外へ出て行く同級生を見て、私はむしろ「もっと大分の良さを紹介したい」という気持ちが強かったのです。

地元での就職活動
インターンシップ

必要なのはまず積極性。インターンシップの経験が大きかったです

11月頃から就職用サイトへ登録を行い、12月下旬から企業説明会に参加しました。1月からは筆記試験など具体的な選考が始まり、福岡での説明会にも参加しました。希望していた企業の一つに落ちたことが精神的に辛く、5月から8月にかけて就職活動を一時休止しました。8月の終わりから就職活動を再開し、インターンシップでお世話になった全日空ホテルオアシスタワーへお礼のご挨拶に伺ったところ、採用試験を行っているかと教えていただき、早速受験。10月の初めに内定を頂きました。

大きな企業だと就職用サイトに説明会日程などの採用情報が掲載されていますが、大分の地元企業は採用情報をサイトに載せていない、または公表していない場合が多いようです。関心のある企業へは自分で直接電話して今年の採用の有無や説明会の日程など情報を集めました。「地元での就職はコネが無いと無理…」と悲観せずに、自分で積極的に会社の門を叩いていく姿勢が必要だと思います。地元企業の採用活動は、春のピーク後、秋も続きます。APUのキャリア・オフィスでは、大手企業の大分支店での採用情報が掲示されていたり、個別に電話をかけて教えてもらったりしました。

地元企業の採用では四大生女子と短大生女子と一緒にすることが多いので、面接では1人の社会人として認められるような姿勢や言葉遣いを心がけました。首都圏・関西からUターンする学生も多い中、「地元にも良い大学がある」「さすがAPU」と企業の方に認めて頂けるように、積極性・明るさ・目的意識を持って面接に望みました。地元企業の方に「APUです」と言うと、「キャンパスに行ったことがありますよ」「景色が良いですね」など、多くの方が地元の大学としてAPUを身近に、好意的に感じてくださっていると思いました。同時に「何語が話せますか」「どの国の留学生と友達ですか」と聞かれることもあり、多様な文化に触れる体験を経た、魅力あるAPU学生を企業側は求めていると感じました。

先輩の皆さんへのアドバイスは、まず筆記試験の準備を充分にして欲しいということです。筆記試験を通過しないと、その先に進みません。また「地元で働ければどこでも良い」と思うのではなく、それぞれの企業で何をやりたいか、夢や将来を描くことが大切だと思います。



三菱証券株式会社内定

岡本 敦志さん (APS)

就職活動は東京で行い、キャリア・オフィスから紹介のあった日本プレースメントセンターの寮に3ヶ月滞在しました。月額42,000円の滞在費(朝夕食付)で3ヶ月間滞在し、1日約3社を訪問しました。

“世界をフィールドに活躍したい” その思いで金融業界へ

私は3回生の秋セメスターから休学し、半年はアルバイトして渡航資金を準備し、その後オランダ(アメリカ・フロリダ州)で半年間生活しました。それまでも短期旅行でアメリカを訪れて様々な経験をしてきましたが、その半年間の第一の目的は「アメリカで生活する」ということでした。アメリカの色々な面、人々の色々な思いを知りたい、そこでの生活や体験から何か学びたいと思ったのです。

離れてみて、APUは英語を学ぶのに最適な環境を持つ大学だと再認識しました。多くの留学生が集うキャンパスは、捉え方によっては外国の大学で学ぶ環境を日本にいながら体験できるのです。帰国後も海外で学んだ経験を持ち帰って継続的に活用できるという良さを改めて実感した他、何事にも積極的に参加する姿勢を持つように成長できたと思います。自分から発言することを求められる学修環境の中で学生生活を送るこ

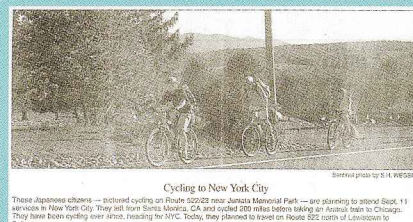
とは、就職活動においても良い訓練になったと振り返っています。

金融業界を志望した理由は、APUへの入学動機「世界をフィールドに活躍したい」という思いが影響していたかもしれません。金融業界は、お金という一つの指標で各国や企業の価値が測られ、中でも証券業界は世界での様々な出来事や発言が株価に影響するというグローバル化の最前線です。アメリカでの生活でTOEICのスコアが伸びたことは事実ですが、英語ができるだけで企業が即採用するわけではありません。私は、韓国でのボランティア経験やアメリカでの自転車横断のエピソードなどを交え、チャレンジ精神旺盛な自分をアピールしました。企業の方からは「どうしてAPUに入ったのですか?」と入学動機を聞かれることも何度かありました。また就職活動前には、学内で筆記試験の模試にも参加しました。筆記試験は受験回数を重ね

るごとに成績が伸びていくものなので、模試へ積極的に参加することをお勧めします。

希望していた業界から内定を得て、自分がこれまで歩んできた道が認められたのだと自信ができました。この内定も自分の積極性から得られたものだと感じています。

遠く仙台に暮らす両親には、私を信頼してくれていたことに感謝しています。事後報告することが多かったのですが、休学の決意も就職活動も私の意志を尊重し、サポートしてくれる姿に支えられました。



Cycling to New York City
These Japanese citizens — pictured cycling on Route 522/22 near Atlanta Memorial Park — are planning to attend Bike 11 services in New York City. They will leave from Santa Monica, CA and cycle 200 miles before taking an Amtrak train to Chicago. They have been cycling over since, reaching the NYC. Today, they planned to travel on Route 522 from Atlanta to Baltimore.

↑アメリカでの自転車横断は、現地新聞でも報道されました。

TOPICS

インターンシップとは

在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連すると考えられる企業・団体等で就業体験(多くは無償)を行うことです。本学では、主に夏と冬のセッション期間中にインターンシップを実施しており、2001年からこれまで約70社・団体にて、延べ600名を越える学生が参加しました。本年度より、インターンシップは一定の要件を満たせば単位として認められます。最近の傾向として、大手電機メーカーを中心に「採用直結型インターンシップ」が各業界に広がっています。これは、インターンシップに参加した学生の中から、優秀な学生に内定を出すという採用方法です。

主な派遣実績

国際協力事業団(JICA/アメリカ事務所・九州国際センター)、日本貿易振興機構(JETRO/全16カ国)、国際観光振興会、経済産業省九州経済産業局、読売新聞社、西日本新聞社、RKB毎日放送、エフエム福岡、大分県庁、別府市役所、福岡市総務部企画局、三洋電機、シャープ、旭化成、全日本空輸(ANA)、日本旅行、NPO・熱帯農林技術開発協会、公文教育研究会、新日本監査法人、熊谷組など

本学インターンシップの主な形態

(1) 協定型

本学と覚書を交わし、提携した企業・団体にてインターンシップを行います。毎年6月・11月頃にオリエンテーションを実施、その後、派遣先を学内掲示板・インターネットに掲示し、募集と選考を行います。インターンシップ期間中の事故に備え、保険の加入が必須となっています。

(2) 学生独自参加型(自由応募)

学生が独自にインターンシップ先を探し、申し込みます。多くの学生は、関心のある企業のホームページから情報を得て応募しているようです。保険に加入する必要があるため、参加が決定した場合は、必ずキャリア・オフィスへ連絡することが必要です。

Q&A

・派遣期間はどのくらいですか?

1週間から2週間くらいまでが一般的です。企業によっては1日のみ、1ヶ月など差があります。また、派遣時期の最近の傾向として、春よりも夏にインターンシップ生を募集する企業が多いようです。

・仕事の内容はどのようなものですか?

多種多様です。会社見学的なものや講義中心のものから、実地研修や一つのプロジェクトを仕上げるものなど、企業によって異なります。仕事の内容は、事前に

受け入れ先へ聞くことが大切です。

・海外でもインターンシップできますか?

できます。仲介団体および各企業・団体のホームページなどで情報収集を行うことが可能です。キャリア・オフィスにも一部情報があります。海外でのインターンシップは、ビザ・保険などの問題があるため、かなり早い時期からの準備が必要です。

学生インタビュー

小田部 智子さん

(APS3回生)
JICA九州の
インターンシップに参加



このインターンシップに参加した目的は、以前から憧れていた国際協力の仕事について、実際の現場で行われている業務を知り、またそこで働く自分をイメージできるようになりたい、ということからでした。しかし、実際にJICA九州で2週間インターンとして働いた後、自分の当初の目的を超えるほど様々なものが得られました。

まず「技術移転」「開発教育」など、言葉でしか知らなかったことを目の当たりにし、それらの言葉を現実味を持って深く捉えられるようになっただけでなく、職業そのものについても多角的な視点を持つようになりました。これまで就職活動に不安がありました。インターンシップを通じて、就職活動で自分に合うものは何かを広い視点で探したいと思うようになり、前向きに考えていけるようになったと思います。

APUからの留学制度をご案内します。

誰もが留学できる時代。
自分にあった留学を実現するためには.....

本学の国際的な環境に触発され、実際に海外で生活してみたい・学んでみたいという意欲を持つ学生が、毎年さまざまな形態で海外へ羽ばたいています。しかし、留学が必ず楽しい生活やすばらしい結果を保証するものではありませんし、留学すれば必ず語学が上達したり、満足のいく就職ができたりするわけでもありません。明確な目的意識を持ち、綿密な留学計画を立てることが、留学を成功させる秘訣です。以下に、APUの留学制度を紹介します。

本学の留学形態

留学	在籍留学	①交換留学 ②UBCジョイントプログラム ③立命館・ボストン大学プログラム ④語学研修(短期) ⑤個別合意に基づく留学・・・ 本学が留学と認定した場合
	休学	⑥語学研修(長期) ⑦個別合意に基づく留学・・・ 留学と認定されなかった場合 ⑧休学による海外渡航

①交換留学

海外の大学で専門分野を学びたい人のために・・・世界25カ国・地域/45大学へ学生を派遣 (締結中2大学を含む/2005年2月7日現在)

概要:立命館アジア太平洋大学と学生交換協定を締結している海外の大学に約1年間(もしくは1セメスター)留学するプログラム。派遣先の大学で、現地学生とともに各自の専門分野のカリキュラムを受講するため、専門分野における基礎学力と高い外国語運用能力が要求される。また、異文化社会に適応できる柔軟性と自立した精神力が必要。

派遣期間:1年または1セメスター

経費:本学に学費を納入することで派遣先大学への授業料は納入不要。渡航費・滞在費その他必要な経費は自己負担。

応募資格:

成績・・・GPA2.0以上(派遣先により異なる)

語学力・・・英語圏への留学はTOEFL550点以上必要。英語圏以外の場合、派遣先の正規課程のクラスで学べる語学力が求められる。

志望理由書・・・①交換留学への志望理由、また留学希望大学に出願した理由、②APU入学後に授業以外で取り組んできたこと(正課外活動、ティーチング・アシスタント、レジデント・アシスタント、国際会議への参加、インターシップなど)、③異文化適応についての考え

募集人数:

各大学1~2名。「交換」のため、相手先大学からの派遣人数によって、採用人数が毎年若干異なる。

派遣時期:

*アメリカ・カナダ・メキシコ・香港

⇒8・9月出発-5・6月帰国(秋セメスター分のみ派遣可)

*オーストラリア・サモア

⇒2月出発-11・12月帰国(春セメスター分のみ派遣可)

*イギリス・オランダ・スペイン・中国・台湾・インドネシア

⇒9月出発-6・7月帰国(秋セメスター分、もしくは春セ

メスター分のみ派遣可)

*韓国 ⇒3月出発-12月帰国(秋セメスター分、もしくは春セメスター分のみ派遣可)

*タイ ⇒大学によって出発および派遣期間・帰国時期が異なる。

*フランス⇒9月・10月出発-2月・3月帰国

*マレーシア⇒5月出発-3月帰国

*フィンランド・デンマーク・ドイツ・オーストリア

⇒9月出発-6・7月帰国(秋セメスター分のみ派遣可)上記派遣時期・期間は目安です。各大学の都合により前後することがあります。

何を学ぶか・派遣先学部:

APUの交換留学では、留学までに取り組んできた学修・研究をより発展したものとするため、他大学で専門科目などを受講し、その分野についての知識をより広いものとしていくところに真の目的があります。そのため、協定大学では、APS/APMの両方もしくはいずれかの学部の専門と重複する学問分野を学べるようになっています。

宿舎:

派遣先により異なりますが、基本的には派遣先大学の学生寮への入居が可能です。ホームステイ・プログラムを提供している大学もありますし、個人的にアパートを借りる学生もいます。

帰国後の単位認定方法:

留学先で取得した単位は、APUの単位で60単位を上限として認定を行います。単位数の換算方法は、多国間における大学単位互換方法を定めたガイドライン(UCTS)によることを基本としています。したがって現地大学の単位数が必ずしもAPUと同一単位数とは限りません。留学先の正規課程において修得した科目のうち、本人からの申請に基づき、審査の上、認定を行います。(申請方法・申請期間の詳細は、アカデミック・オフィスにて渡航前に確認が必要です。)

また、APUの交換留学では、留学までに取り組んできた学修・研究をより発展したものとするため、他大学で専門科目などを受講し、その分野についての知識をより広いものとしていくところに真の目的があります。そのため、APUの開講科目と全く関連性の無いもの(体育、芸術等)の単位認定は行っていません。

交換留学出願の流れ:

(出発の1年前から準備が始まります)

流れ	春	秋
本学webページ上で、募集情報入手	4月	10月
1次審査書類提出(志望理由書・語学能力・GPAなど)	5月	11月
面接(一次選考通過者のみ)	5月	11月
内定	6月	12月
派遣先大学へ書類提出	4~7月	10~1月
派遣先大学から入学許可入手	書類提出後1ヶ月程度	
本人によるビザ・航空券手配	入学許可入手次第	
出発	1~3月	8~10月

奨学金(2004年度実績):

①「APU-Club・国内学生父母の会 国際交流支援」

[金額]1セメスター留学の場合:30万円

1年間留学の場合:45万円

[人数]毎年度5名

[選考]アカデミック・オフィスへ提出した志望理由書・GPA・語学能力・面接評価を総合的に判断し、上位者より支援。

②日本学生支援機構短期留学推進制度(派遣)奨学金

[金額]8万円/月額

[人数]同機構の指定枠(派遣先地域・人数)による
[選考]交換留学志望理由書・GPA・語学能力・面接評価を総合的に判断し、上位者より日本学生支援機構へ推薦。同機構が採用可否を判断。

②UBCジョイント・プログラム

現地での学習と生活を通じて文化的相互理解を高めるためのプログラム

概要:

立命館とUBC(University of British Columbia/カナダ)が共同で開発した独自のカリキュラムに基づく留学プログラム。

派遣人数:5名

派遣期間:

8月から翌年4月下旬(UBCの正規の1学年に相当)

応募資格:

原則として派遣時2回生(上回生も応募可能)。

TOEFL450点以上(2004年度実績)

応募時期:毎年10月ごろ

経費:

本学への秋セメスター分学費のほかに、「UBC実習料(2003年度実績約35万円)」、渡航費、寮費、保険料などが必要。その他、食費・生活費は自己負担。

何を学ぶか:

英語で学ぶ力を養成する「言語教育科目」や各自の興味に応じて4分野より選択可能なカナダに関する入門コース「カナダ研究」、両大学の教員が担当するコア科目(「環太平洋研究」「異文化間コミュニケーション」:いずれもUBCの正規開講科目)を履修。さらに、一定の受講基準を満たせばUBCで開講されている他の正規開講科目を受講することも可能。また、UBCジョイント・プログラムが終了した後、続けてUBCで交換留学生として学ぶ2年目プログラムもあります(選考あり)。

宿舎:UBCの学内寮

③立命館・ボストン大学プログラム

概要:

語学力(リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング・文法・語彙・発音)の総合的なスキルアップと、海外大学での入門的な科目を英語で学ぶ力を身に付けるためのプログラムです。ボストン大学の付属英語学校CELOP(Center for English Language and Orientation Programs)で実施されます。

派遣人数:

立命館大学とAPUから50名程度(2004年度APU学生派遣実績:9名)

派遣期間:2月中旬~3月中旬(約4週間)

応募資格:

現地での学習に意欲を持ち、真摯に学習に取り組む学部生(全回生参加可能)。

応募時期:9月中旬

経費:

45万円程度(授業料、寮費[朝食・夕食代含む]、航空運賃等)

※この他、渡航手続きに関する費用(パスポートやビザの取得等)、海外旅行傷害保険料、昼食代、派遣先での個人行動費・通学交通費、日本国内の交通費等が必要です(個人負担)。

何を学ぶか:

1クラス12〜17人編成とし、語学能力に基づいて授業が行われます。コア科目(語学力の総合スキルアップ/週15時間)、選択科目(入門的な科目を英語で学ぶ/週5時間)、各自の研究分野に関する調査研究とプレゼンテーション、フィールド・トリップで構成されます。

宿舎:

学生寮「昭和ボストン」(昭和女子大学のボストン寮)
※1部屋2人使用が基本。朝夕食付。

その他:

プログラムの修了者には、派遣年度の秋 semester 科目として「特殊講義(基礎教育科目・2単位)」が認定されます。成績評価は、CELOPの評価を参考としつつ、担当教員が行います。ただし、卒業該当回生への単位認定は行いません。

④語学研修

短期・長期の語学研修については、個人で手配するもの他に、大学が紹介するプログラムもあります。詳しくはアカデミック・オフィスへご相談ください。

⑤個別合意に基づく留学

個別合意に基づく留学とは、本学学生が諸外国の大学に入学が許可された場合、本人の申請(遅くとも出発4ヶ月前までにアカデミック・オフィスへ申請)に基づいて、本学が留学と認定した場合を言います。あくまで正規課程に入学する場合であって、大学付属の英語集中コース(ELIなど)では適用されません。派遣期間は1年を上限とし、学籍上の取り扱い・単位認定などについては交換留学の場合と同じです。一方、経費については全て自己負担となり、学費は本学と留学先大学の両方へ納入しなければなりません。

留学の申し込み、渡航先の情報収集、本学に留学と認められるために必要な提出書類の準備など、全て本人が行う必要があります。

⑥〜⑧休学による海外渡航

休学をして海外へ行き、語学研修などを行う場合は、たとえ留学先で単位を取得しても、本学の単位としては認定されません。ただし、言語教育科目の履修免除申請は可能です。例えば、休学中に英語能力を海外で磨いた場合、帰国後に本学の英語科目の履修を免除申請することが可能です(夏セッション・冬セッション中の短期語学研修は、休学の申請が不要)。休学は semester 単位で許可され、最大4 semester まで延長できます。その期間中は学費免除となりますが、1 semester あたり5,000円の在籍料を納入する必要があります。

交換留学協定先一覧 (授業言語・応募条件は直近で募集があった年度のもの。応募条件などは派遣先の都合により、変更になることがあります。)

国・地域	機関名	授業言語	応募条件
オーストリア	スタイヤ・スクール・オブ・マネジメント	英語	TOEFL550 GPA 2.0以上
	ビーエフアイ・ウィーン応用科学大学	英語	TOEFL550 GPA 2.0以上
オーストラリア	ラトロブ大学法律経営学部	英語	TOEFL 550 GPA 2.0以上
	マコーリー大学	英語	交換留学: TOEFL 570 IAPEプログラム: TOEFL 540 GPA 2.5以上
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	英語	TOEFL580 GPA2.5以上
	ヨーク大学シュールヒスクールオブビジネス	英語	TOEFL580 GPA 2.0以上
	ビクトリア大学	英語	TOEFL550 GPA 2.0以上
中国	東北財経大学	中国語	会話可能なレベル GPA2.0以上
	上海交通大学	中国語	中国語検定3級 GPA 2.0以上
	香港中文大学	英語・中国語	TOEFL550 GPA 3.0以上
エクアドル	太平洋大学	スペイン語	会話可能なレベル GPA 2.0以上
フィンランド	ローリア・ポリテクニク	英語	TOEFL550 GPA 2.0以上
フランス	ルアーン・ビジネス・スクール	英語	TOEFL550 GPA2.0以上
	高等商業学院 (ISC)	英語	TOEFL550 GPA2.0以上
インド	EMPI	英語	2006年 派遣開始予定
インドネシア	ガジャマダ大学	インドネシア語・英語	会話可能なレベル GPA 3.0以上
韓国	梨花女子大学	韓国語・英語	韓国語TOEFL520 GPA 2.5以上
	高麗大学	韓国語・英語	韓国語検定2級または3級 GPA 2.0以上
	慶熙大学	韓国語	韓国語検定2級または3級 GPA 2.0以上
	釜山国立大学	韓国語	韓国語検定2級または3級 TOEFL520 GPA 2.0以上
	蔚山大学	韓国語	韓国語検定2級または3級 TOEFL520 GPA 2.0以上
	延世大学	韓国語・英語	韓国語検定2級または3級 GPA 2.5以上
	淑明女子大学	韓国語・英語	韓国語検定2級または3級 TOEFL550 GPA 2.0以上

国・地域	機関名	授業言語	応募条件
韓国	東西大学	韓国語・英語	2006年 派遣開始予定
マレーシア	マラヤ大学	マレー語・英語	授業を理解できる レベルのマレー語または TOEFL500 GPA 2.5以上
メキシコ	モンテレー工科大学	スペイン語・英語	授業を理解できる レベルのスペイン語 またはTOEFL550 GPA 2.0以上
オランダ	ライデン大学	英語・オランダ語	TOEFL570 GPA 3.0以上
ノルウェー	ノルウェー・マネジメント・スクール	英語	2006年 派遣開始予定
サモア	サモア大学	英語	TOEFL550
シンガポール	シンガポールマネジメント大学	英語	TOEFL530 GPA 2.0以上
スペイン	サンチアゴ・ディ・コンポステラ大学	スペイン語	スペイン語検定2級 または3級GPA 2.0以上
デンマーク	コペンハーゲン・ビジネス・スクール	英語	TOEFL570 GPA 2.5以上
	オーフス・スクール・オブ・ビジネス	英語	TOEFL560 GPA 2.0以上
台湾	国立政治大学	中国語	授業が理解できるレベルの 中国語またはTOEFL520 GPA 2.0以上
	国立台湾師範大学	中国語	授業が理解できるレベルの 中国語またはTOEFL520 GPA 2.5以上
	東海大学	中国語	授業が理解できるレベルの 中国語またはTOEFL520 GPA 2.0以上
	南台科技大学	中国語	授業が理解できるレベルの 中国語またはTOEFL520 GPA 2.0以上
タイ	タマサート大学	英語・タイ語	TOEFL500 GPA 3.0以上
ドイツ	otto・フォン・ゲーリク大学マクテブルク	英語	TOEFL550 GPA 2.0以上
イギリス	ウェストミンスター大学	英語	TOEFL550 GPA 2.8以上
アメリカ	アメリカン大学	英語	TOEFL550 GPA 3.0以上
	ハワイ大学	英語	TOEFL500 GPA 3.0以上
	オクラホマ大学	英語	TOEFL550 GPA 2.0以上
	ウェストコンシン大学オッシュコシュ校	英語	TOEFL550 GPA 3.0以上
ベトナム	ハノイ工科大学		GPA 2.0以上

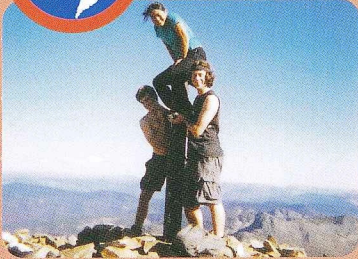
国際交流支援・学生のお礼の言葉

父母の会では、交換留学生として海外の協定大学へ派遣される会員子女を支援しています。



留学先:ブリティッシュ・コロンビア大学(カナダ)

↑上が長野さん



長野 恵里子さん
(APS3回生)

私は現在カナダのバンクーバにあるブリティッシュコロンビア大学(UBC)に留学しています。UBCでは林学部にて林学を専攻し、生態人類学(民族植物学)、野生動物・天然資源の保全保護、先住民の資源管理などといった自然科学と社会科学の両方を取り込んだ分野の勉強をしています。カナダに着いた次の日から始まったFall Campでは、州の北部で10日間を過ごし、毎日毎日雨の降る森の中での授業を経験しました。まさにゼロから始まったカナダでの林学の勉強ですが、日々の授業、人とのつながり、そして様々な経験といったこれらの積み重ねが、これからの自分の生き方や将来の方向性についてより明確な答えを導き出す指針となると確信しています。

父母の会の皆様からいただいた奨学金は、フィールド調査費やそのほか学業のサポートとして使わせていただきます。このような機会を与えてくださったことに感謝しています。本当にありがとうございました。



留学先:ブリティッシュ・コロンビア大学(カナダ)

↑一番右がメロディさん



NELSON, Melody Meiさん
(APS3回生)

私は、現在カナダにあるブリティッシュコロンビア大学に留学中です。最初は地図を片手に持ち、キャンパスの大きさに圧倒されていましたが、寮や授業、クラブ活動を通じて様々な人と出会い、大学生活を楽しめるようになりました。今、私は人種や人種差別について学んでいます。カナダは多文化をポリシーにしている国で、ここバンクーバーの町は特に移民が多く、様々な人種と一緒に暮らしている多文化地域で、APUとはまた違う国際的な環境です。授業以外にも、毎週様々なイベントがあり、よく友達とコンサートなどに行きます。

ハーフとして一つびっくりしたことがあります。日本ではよく「日本語が上手だね」と言われてきましたが、ここでは逆に「英語がとても上手だね」と言われることです。日本以外の国で生活するのは初めてですが、インターナショナルスクールに通っていたため言葉の壁はそれほど感じません。しかし、文化の面ではやはり違いを感じます。この機会を生かして様々な経験をし、大きく成長してAPUに帰りたいです。

父母会の皆様のご支援、ありがとうございます。



留学先:シンガポールマネジメント大学(シンガポール)

↑右から二番目が杉山さん



杉山 真希さん
(APM3回生)

この度は父母の会の奨学生に採用していただき誠にありがとうございます。とても嬉しく思っています。現在、シンガポールマネジメント大学(SMU)で経営について学んでいます。1セメスターの留学のため、期間は短いのですが、留学生生活を有意義に過ごせるように、勉強だけではなく文化や習慣など多くのことを学び、満足のいく留学になるようにしたいです。父母の会の奨学生として今以上に様々なことに励み、チャレンジし、そしてここでの経験が将来の自分にとって貴重な財産になるように頑張ります。今後もこの奨学生制度を通して、多くのAPU学生が社会に大きく羽ばたく一つの機会になればと思います。心から御礼申し上げます。ありがとうございます。

シンガポールで有名なものと言えば、マーライオン、そして次に挙げられるものは食文化です。この写真は先日、シンガポールの友達の家へ招待されてみんなで生春巻きを食べた時のものです。彼女たちは2004年春にAPUで勉強していた交換留学生です。今度は自分が彼女達の大学へ交換留学することになりました。出会いとは不思議な

ものです。隣の彼もAPUからの交換留学の仲間です。彼女達とはAPハウスを通して出会いました。いつも一緒にいた友達が現地の人だと思わず不思議な思いがします。彼女たちはすごく生き生きしていて、その人らしさ、その国らしさがよく伝わってきました。やはり、故郷に帰ったときの自分が本当の自分かもしれません。

シンガポールの食文化を体験したこの生春巻きは、皮も手作りで、モチモチした食感です。唐辛子とにんにくペーストと一緒にタレのようにつけて食べます。シーフードやベーコンなどお好みで具を詰めます。この写真を撮った時は、あまりに多く詰めすぎて皮を破ってしまったり、唐辛子を入れすぎて辛さで汗がたらたらと額から流れ出たりしました。一年中夏、という国ですが、暑さに負けずに毎日がんばっています。ポストに手紙が入っているときが本当に嬉しい今日この頃です。

交換留学・言語研修学生インタビュー

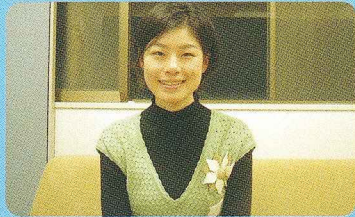
実際に海外へ留学した学生からの体験談を紹介いたします。

交換留学

奥村 桂さん (APM3回生)

派遣先:ブリティッシュ・コロンビア大学(カナダ)

派遣期間:2回生秋 Semester および3回生春 Semester



短期語学研修

小林 梨乃さん (APS2回生)

派遣先:カリフォルニア大学サンディエゴ校(アメリカ)

派遣期間:2004年8月から4週間



交換留学は正規生扱い。 経済的にも嬉しい仕組みです

高 校生のとき、交換留学生としてフロリダ州(アメリカ)で10ヶ月間生活しました。帰国後、海外の大学へ進学を希望していたところ、国内でも国際的な環境で学べる大学があると知り、APUに入学してから留学しようと思いを固めました。入学前から留学を希望していたため、1回生の秋 Semester に TOEFL-IP を学内で受験し、交換留学に応募しました。交換留学は実際に派遣される1年前に応募するスケジュールなので、早くから準備が必要だと思えます。

交 換留学を希望した理由は、帰国後の単位認定がスムーズな点と、派遣先大学でも正規生として学べる点です。授業についていくのはハードな部分もありますが、私にとっては現地の学生と机を並べて勉強することは、とても良い経験になりました。APUには交換留学協定を締結している大学が海外に多くありますが、私は「その大学で何を学べるか」を慎重に調べて留学先を決めました。自分で各大学のホームページを見て開講科目の内容を調べたり、以前その大学へ留学していた先輩の話を知ったりして、最終的には経営分野のコースが充実していた UBC で学ぼうと思ったのです。UBC は総合大学で、自分の意欲があれば複数の学部の科目を履修することも魅力でした。渡航前の情報では、交換留学生には履修できないと言われていた授業も、実際、留学後に現地のスタッフに履修について相談したら認めてくれたこともありました。

交 換留学のもう一つの良い点は、「交換」という性格上、APU から留学する学生もいれば、逆に派遣先大学から APU へ留学している学生が APU 学内にいること。現地の生活情報や履修方法など、派遣先大学の学生から生の情報を聞くことができ、色々な面で助けてくれました。また、交換留学は授業料を APU のみに納め、派遣先大学の授業料が発生しない制度のため、経済的な面でも助かりました。加えて派遣先大学内に住居があり、APU のようなバス割引バスが使えたため、生活費も比較的安く済ませることができました。カナダは国際電話料金も安かったため、留学中は現地で携帯を購入し、応援してくれた母親とは頻りに連絡を取っていました。

現 在就職を控えています。留学前は「英語が使える仕事＝外資系企業」と思っていました。しかし UBC へ留学して、日本語を学んでいる学生、日本に関心のある学生が非常に多いことを知り、日本企業の海外進出に関わる仕事がしたいと思うようになりました。APU の多文化環境で学んだことに加え、海外での留学経験で更に視野が広がったと感じています。

留学を期待以上に楽しめたのは、 APUの多文化環境あってこそ

私 はずっとアメリカに行ってみたいと思っていました。日本人はアメリカにあこがれている人が多いけど、本当のアメリカの姿はどうか、自分の目で確かめたかったからです。春 Semester が始まった後、アカデミック・オフィスで夏期語学研修の募集を目にし、説明会に参加しました。留学先はアメリカのカリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD)。エクステンションコース(英語のみ集中的に学ぶ課程)に在籍しました。留学先を選んだ理由は環境が良かったことです。留学先の学校のホームページを見たり、実際にカリフォルニアへ行ったことのある友人に聞いたりして、都会ではなく落ち着いた勉強に取り組める環境を重視し、サンディエゴに決めました。実際に出発したときは一人で初めていく海外でしたから、まず飛行機を乗り継いで現地の最寄り空港まで到着することに気を揉んでいました。ホストマザーが空港で迎えてくれた時にはホッとしました。

留 学中は、毎日午前中に授業があり午後は自由時間。その間、宿題をしたりクラスの仲間と様々なアクティビティをしたり、とても充実して過ごしました。土日も大学が様々なアクティビティを用意しており(有料・参加自由)、私は積極的に参加して見聞を広めました。クラスは20名でアジアの留学生が大多数でした。普通、日本の大学に在籍しながら海外留学した場合、周りは外国人ばかりで萎縮したり孤独感を感じたりするかもしれませんが、でも、APU は学校に海外、特にアジアの学生が多く在籍していて、彼らがキャンパスにいるのも自然だし、コミュニケーションをとるのも日常的なので、留学先の多国籍なクラスにも自然に溶け込めました。ホームシックで帰国したいと言う日本人学生もいた中で、私が楽しく過ごせたのも APU での学生生活の成果だと感じています。また私は APU で韓国語を学んでいるため、韓国からのクラスメイトと仲良くなって、韓国語も実践できる良い機会となりました。APU からは1人のみの参加でしたが、日本人同士で固まってしまうことなく、結果的には良かったと思っています。

英 語Ⅲが終了した段階で留学しましたが、帰国後の今 Semester には、自分の英語力をキープしたくてビジネス英語を受講しています。渡航前は、英語による授業を履修する自信が無かったのですが、今は英語による授業も履修するようになりました。短期留学して、今後の長期留学への自信も付きました。長期留学では異文化をもっと吸収するとともに、英語能力にさらに磨きをかけたいと思います。

国内学生を対象とした以下の奨学金は、スチューデント・オフィスが担当しています。
応募書類など詳細については、スチューデント・オフィスでご確認ください。

(1) 日本学生支援機構奨学金 (旧日本育英会) (貸与)

第一種 (無利子)

●出願資格:国内学生(在留資格が「永住者」「永住者の配偶者」も含む。また、学業成績および家計基準を満たしていることが必要。)

●貸与金額(2004年度):自宅通学者53,000円、自宅外通学者63,000円

●貸与期間:貸与開始月から卒業するまでの最短修業年限

●募集時期:毎年4月

第二種 (有利子:在学期間中は無利子。貸与利率は上限3%)

●出願資格:国内学生(在留資格が「永住者」「永住者の配偶者」も含む。また、学業成績および家計基準を満たしていることが必要。)

●貸与月額:3万円・5万円・8万円・10万円の4種類から選択

●貸与期間:貸与開始月から卒業するまでの最短修業年限

●募集時期:毎年4月

※緊急・応急採用

第一種・第二種ともに、家計急変や災害被災等で学資に困ったときに、随時出願を受け付ける制度があります。希望する場合はスチューデント・オフィスへ相談ください。

(2) 奨励奨学金制度 (いずれも給付)

① 安藤百福名誉博士奨学金

●対象:第1セメスターおよび第2セメスター、あるいは第3セメスターおよび第4セメスターに優秀な成績を修めた者、または顕著な自主活動を行った者

●給付金額:25万円

●採用人数:8名(2回生4名・3回生4名)

② 安藤百福名誉博士栄誉賞

●対象:学部卒業予定者で、成績優秀であり、自主的活動などにおいて顕著な成果を修めた者、また将来においても意欲的な進路の目標を掲げ、アジア太平洋地域で大きな貢献を果たすことが期待される学生

●給付金額:上限100万円

●選考時期:卒業時

●採用人数:各卒業時期に1名

③ 優秀学生奨励金

●対象:第2～第7セメスター修了時、各学部において、各入学年度およびセメスター期を対象グループとし(例:2004年度春セメスター入学者グループ・2004年度秋セメスター入学者グループ)、各グループ内でのGPAが上位1位の者。かつ、各グループ

での平均修得単位数を満たしている者。

●給付金額:1名につき10万円

●採用人数:各入学セメスター期につき各学部1名

④ 自主活動奨励金

●対象:自主的諸活動において顕著な正課を修め、かつ今後更に高い目標を掲げ、その達成が期待される個人または団体

●給付金額:上限10万円

●応募時期:毎年度12月

⑤ レジデント・アシスタント奨学金

●対象:APハウスのレジデント・アシスタントに任命された者

●給付金額:月額1万円

●給付期間:レジデント・アシスタント任期期間

(3) 生活援助を目的とした奨学金制度

① 緊急授業料支援金(減免)

●対象:内閣総理大臣による「非常災害対策本部」が設置された災害によって家計が急変し、修学に著しい支障が生じた者、または生じる恐れがある者で、その事情が生じたときから1年以内のもの。

●募集時期:授業料納入時

●給付金額:年額25万円を上限として、該当する授業料を減免

② 生活援助金(貸与)

●対象:仕送りの遅れなど、不測の事態によって緊急に援助を必要とする者

●貸与金額:上限2万円

●貸与期間:3ヶ月以内(無利子)

(4) APU-Club・国内学生父母の会 (いずれも給付)

① 修学援助奨学金A

●応募資格:APU-Club・国内学生父母の会会員である学費負担者の死亡により、就学を継続することが困難となった学生

●給付金額:上限50万円

●応募時期:死亡日より3ヶ月以内

●備考:修学援助金Bとの併給および受給後は修学援助金Bを含めて再出願できません。

② 修学援助奨学金B

●応募資格:APU-Club・国内学生父母の会会員である学費負担者の家計急変により、就学を継続することが困難となった学生

●給付金額:上限50万円

●応募時期:毎年度6月・12月に対象家計急変期

間に該当するものが応募し、選考を経て給付者を決定する。

●備考:修学援助金Aとの併給および受給後は修学援助金Aを含めて再出願できません。

③ 自主活動表彰

●応募資格:各分野において全国レベルでの顕著な成果を修めた団体・個人

●給付金額:上限20万円

●応募時期:毎年度12月に応募し、選考を経て表彰者を決定する。

(5) 地方公共団体奨学金

日本国の都道府県および市町村の多くが、それぞれの地域に居住するものの子弟もしくは出身の学生に対し、独自の奨学金制度を設けています(貸与・給付など制度や応募資格は各自治体で異なります)。これらの団体の募集要項は、APUに募集依頼があり次第、掲示します。また、APUへ募集依頼が来ない場合もありますので、該当の都道府県・市町村の教育委員会へ直接問い合わせ、各自出願してください。

APUに届いている要項:新潟県・茨城県・大阪府・岡山県・愛媛県・鳥取県・福岡県・熊本県・長崎県・鹿児島県・沖縄県

(6) 民間奨学財団による奨学金

優秀な人材の育成をはかり、社会の発展と福祉に寄与することを目的とした民間団体による奨学金制度があります。これらの募集要項は、各団体から本学へ募集依頼があり次第、掲示板にて告知します。

修学援助奨学金お礼状

父母の会では、経済的に修学を継続することが困難になった学生を援助するために、奨学金を支給しています。奨学金を受け取った学生からのお礼状を紹介いたします。

修学援助奨学金A受給者

この度は修学援助奨学金をいただき本当にありがとうございます。いただいた奨学金はAPUでの活動や勉強のために使わせていただきたいと思います。

父の死を知った時は一人で休学や退学を考えたりもしましたが、母の強い勧めもあり、今までのようにAPUに在籍して勉強を続けることにしました。また父の死後、職場の方々から、父は私がAPUで学んでいる事を自慢に思っていた、ということを知りました。無口な父は生前そのような事を家庭で一切口にすることはありませんでしたが、父の私への思いを改めて

知り、この大学生活をさらに充実させなければならないと考えています。

父が亡くなり早くも二ヶ月が経ちました。初めの一ヶ月は慌しいうちに過ぎ去り、二ヶ月目は父のいない新たな生活を築く時だったと思います。母も私も日々を無闇に過ごすのではなく、明るく楽しく歩みを伴ったものにしたいと考えています。その思いを支えてくれたこの奨学金制度には本当に感謝しています。

APS2回生女子

修学援助奨学金B受給者

この度は父母の会修学援助奨学金Bの受給者として採用していただきありがとうございました。

私は、父の失業により家計が急変したことを受けてこの奨学金Bを申請することになりました。3回生となり就職活動を目前に控えた私にとっては、かなり辛い経済状況でした。しかし父母の会の奨学金制度により家計も若干楽になりそうです。この場を借りてこの上ない感謝の意を表したいと思います。

また、私以外にも経済的事情で勉強に打ち込めない人たちが

がいるかと思っています。そのような人たちに父母の会が更なる修学援助金などの機会を与えてくださればと思う限りです。

これから私は、他からの支援があり今の私が存在すると言うことを忘れずに、勉強、就職活動に献身奮闘していきたいと思えます。

この度は誠にありがとうございました。

APM3回生男子

この度は修学援助奨学金Bに採用していただき本当にありがとうございました。大学生活にも慣れ、自分の目標が明確になりはじめた頃に家庭状況の急変により、大学生活の継続が困難な状態になりました。しかし自分の夢を達成させるためにAPUへの入学を決め、ここでその夢を絶対に諦めたくなかったので、皆様のご理解、ご協力により修学が継続できることを心から感謝しています。このご恩を忘れずに、しっかりと自分の意志を持ち、皆様をはじめ両親、私を支えてくださっている方々の期待を決して裏切ることのないように、これから充実した大学生活を送りたいと思います。

APS 1回生女子



第2回天空祭に11,000名が来場

10月30日と31日の両日、学生による学園祭「第2回天空祭」が実施されました。「APUism→∞」をテーマに、学園祭実行委員会Baseイベントを中心に春 semesterから準備が連日進められてきました。

学生たちは早くからポスター・パンフレット・はがき等で広報を行い、メディアにも働きかけ、当日は学外から多くの来場者を迎えることができました。また、昨年より多くの正課外活動団体が模擬店・フリーマーケットへ出店し、学内での学生活動の活性化にも繋がりました。地域の企業・商店からも協賛について快諾いただき、地域との交流が深まり、今後も地域に定着していく学園祭となりました。



11月10日、第2回立命館アジア太平洋大学ビジネスプランコンテストが開催され、応募があった8点のビジネスプランが発表されました。

日本語、英語でのプレゼンテーションが各4点あり、自己の経験やこれまでの学習を生かしたビジネスプランが出されました。それぞれのプレゼンテーションに対して採算性や独自性についての質疑応答もあり、学生たちは懸命にプランの良さをアピールしました。

審査の結果、特別賞に該当するプランはなかったものの、3点のプラン

第2回立命館アジア太平洋大学 ビジネスプランコンテスト開催

に賞が贈られました。

1位には、炭酸飲料の炭酸が抜けにくく、軽量でごみの量が減らせるといふ伸縮性ペットボトルについてのプランを発表した池西亮さん(APM2回生)ら5人が選ばれました。2位を獲得したのは、家電量販店への人材派遣業についてのプレゼンテーションをした中村雄大さん(APM4回生)で、3位はSUN Liliさん(APM3回生)ら3人の翻訳サービス "Raku Yaku" Computer serviceに決まりました。

表彰された3組はAPU-Club・国内学生父母の会の協賛により、12月5日に北九州市で開催された「日本ベンチャー学会 第7回全国大会」にパネリストとして参加する権利を得ました。

ベンチャー学会に参加しての感想



APM2回生 浅井 俊祐

今回、父母の会の皆様のご好意により、ベンチャー学会に出席させて頂き、そこで様々な大学の学生や教授、企業家の皆さんとお会いし、今自分達が実現しようとしていることについて「学生」「教授」「企業家」といった枠組みに囚われることなく、様々な観点から意見を頂くことができ非常に有意義でした。私はこういった所で得た経験が、将来の様々な問題を乗り越え、次に躍進していく力になると考えています。しかし学生が他大学の学生や教授、企業家と関わる機会は非常に少ないのが現状です。今後も父母の会の皆様が学生に学ぶ場を提供して頂ければ幸いです。今回は本当にありがとうございました。

APM4回生 中村 雄大

今回の日本ベンチャー学会への参加は私にとって大変有意義なものでした。企業を経営されている方や、起業をどのように支援するかスキーム作りをなさっている方、ベンチャーキャピタルを運営している方などと話す機会があり、どのような分野でどのように起業するかについて深く話すことができました。私は将来、会社に勤めそこで学んだことを生かして起業したいと思っていますが、起業の際にご協力いただける方々と知り合えたことは大変うれしく、今日あったことを将来の糧にしたいと思います。このような機会を与えていただき、父母の会には大変感謝しています。

10月16日、「大学発ベンチャービジネスプランコンテストin OITA」(主催 大分県・大学発ベンチャー創出実行委員会)の最終選考会が大分市内で行われました。このコンテストは、県内の大学等と連携して、大学生等が作成した独創的なビジネスプランを顕彰し、ベンチャー機運の効用と起業家人材の裾野の拡大を図るため、今年度初めて実施されました。

県内の大学生・短大生から29件の応募があり、書類審査を通過した8件が最終選考となる2次審査へ進みました。審査会場では、ビジネスプランの実現性・公益性・優位性・課題点について学生が発表し、審査員からは、プランを技術的に発展させるアイデア、実用化に向けたアドバイス、他社との競合が起こった場合の差別化についての質問、事業の舞台を大分とした場合の地域住民としての意見など、活発な質疑応答が行われました。

審査の結果、最優秀賞には大分大学経済学部の学生、優秀賞には2004年9月にAPUを卒業したZABALIUNAS Mindaugasさん(リトアニア出身)と、大分大学工学部の学生のビジネスプランがそれぞれ選ばれました。



Multicultural Campを実施

学生間の異文化交流の機会を増やし、親睦を深めるニーズに応えるべく、11月18日(木)から20日(土)のクォーターブレイク(休講期間)を利用し、国内学生と国際学生の交流企画「マルチカルチュラル・キャンプ」を実施しました。実施費用の一部を父母の会が支援し、国内学生44名・国際学生44名が参加、2泊3日の共同生活の中でゲーム・スポーツ・料理を通じ、新しい友人の輪が広がりました。特に、相互の交流機会を求めながらも、日頃の授業やキャンパス内で積極的に話しかけたり、仲良くなったりするのを躊躇していた国内学生・国際学生双方にとって、またとない異文化交流のきっかけとなりました。

参加学生からの感想

- ▶ APUのキャンパス内では経験できない貴重な体験ができた実感している。このような企画が増え、APUの学生のみんなが言語・国籍関係なくキャンパスライフを送れたらと思う。
- ▶ 大学では、なかなか国際学生の友人ができなかったし、国内学生の友人ができる機会もなくさびしい感じがしていたが、キャンプに参加し友人ができ満足している。来年も続けていければいいと思う。
- ▶ 本当に感動しました。みんなと出会えてよかったです。この出会いを大切にしたいです。いい機会を与えてくれた父母の会、スチューデント・オフィス、オーガナイザーに感謝します。お疲れ様でした。素敵な経験ができました。今後も、チャンスをものできるよう積極的に頑張ります。
- ▶ 充実していた。期待通り、本当に国籍、年齢問わず交流できて話をするだけではなく、国の歴史まで語りあった。今度あなたの国に行くとか、家に泊まりに来てとかまで言える仲間をもてた。予想以上のことが起こったかもしれない。
- ▶ APUにいても国際学生と本当に仲良くなるチャンスはなかなか無いと思っていたし、自分から話しかけることもし

ていなかったと思う。このキャンプで、チャンスは自分で見つけて自分からはしなかけないことをしなけいというに気づいた。次は企画する側で参加してみたい。

- ▶ この機会は“始まり”だから大切に生かしていこうと思う。
- ▶ 父母の会、同行してくれたスチューデント・オフィスのスタッフをはじめ、お世話になった人たちへの感謝の気持ちで一杯だ。今度はみんなを楽しませる側に立って、参加してみたい。新しい何かが見つけれそうだ。最後のフリータイムがもっとほしかった。
- ▶ たくさん英語で話した。どんな国の人とでもコミュニケーションの手段となる、英語のすばらしさを実感した。バレーボールやハイキングでは素の自分が出て本当に楽しかった。普段APハウスに住んでいるけど、APハウスよりも素晴らしい経験だったと思う。
- ▶ 国際学生と友達になりたいと思いAPUに入ったのに、なかなか親しい間柄になれず不満がたまっていたので、このキャンプに参加してよかったと思う。
- ▶ このキャンプを通して、本当に貴重な経験を沢山させてもらった。3日で3ヶ月分のMemoryをもらった。



「ISE2005 (国際交流スポーツイベント)」開催

私たち登録団体「ISE2005実行委員会」は2005年1月10日(祝)に「べっぴアリーナ」にて「ISE2005(国際交流スポーツイベント)」を開催しました。

ISEは「Intercultural Sports Event」の略で、「言葉のいろいろな国際交流」というスローガンの下、地元別府市の皆様、APUの学生、一流スポーツ選手との「交流の場の創造」を目的とした課外活動を行っています。

2回目の開催となった今年は、1000人の皆様にお越しいただき、バドミントン、障害者スポーツ、フットサル、ソフトバレーの競技を行いました。「三洋電機バドミントン部」、「亀川太陽の家」、「大分トリニータ」という、各分野の第一線で活躍中の選手の方々も出席され、来場者の皆さんとの交流を深めました。

今回、父母の会の皆様からの支援をいただき、本当にありがとうございました。将来的に別府市に根づくイベントとなるよう、今後とも頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

「ISE2005実行委員会」メンバー一同



二番右が湯井さん



APU3回生
湯井 雅志

私は8月中国・上海にて開催されたハーバード大学主催の第13回国際学生会議「Harvard Project for Asian and International Relations 2004 (HPAIR2004)」の参加

者に、APUの学生の中から選抜され、出席しました。会議参加にあたって父母の会よりご支援をいただき、大変ありがとうございました。

HPAIRとはアジア地域における政治・経済・文化など幅広い分野にわたり国際関係を会議のテーマの中心として、世界中からの学生400人とともに議論し合うというものです。会議の中心がアジアだからといって、参加学生はアジア地域に限りません。私はHPAIRに参加するのは今回が初めてですが、世界中からのアジアに対する注目はとても大きいことであらためて驚かされました。会議では安全保障問題についてのワークショップに参加し、3日目には日本と中国・韓国との歴史問題が大きく取り上げられ、日本のアジアにおける立場や将来の役割を考え直す機会となりました。

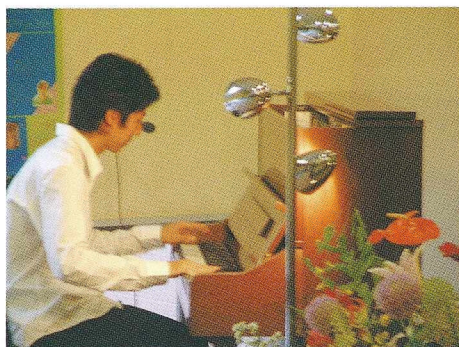
会議はもちろんすべて英語で行われます。APU入学時にはなかったコミュニケーション・ディスカッション能力がAPUでの生活を通して、国際学生会議に参加できるまでに到達することができました。また国際社会で通用できる国際感覚を養うことができたのもAPUのお陰です。

2005年に予定されるHPAIR2005は東京で開催されます。来年は会議開催国の一員として会議運営に携わりたいと思っています。APUからたくさんの方がHPAIR2005に参加し、ともにAPUで学んできたことを世界に発信できればと思います。準備を進めています。父母の会のご支援、大変ありがとうございました。

ハーバード大学主催第13回国際学生会議HPAIR2004に参加

父母の会からの寄贈品ご紹介

父母の会からの寄贈品は学生生活のさまざまな場面で活用されています



▲サイレントピアノ



▲DVD

2004年春、父母の会が、学生の交流イベントへの支援とレクリエーションを目的に、APU学内の学生寮「APハウス1」「APハウス2」および別府市内のAPU学生専用寮「APUクレオハイツ」にサイレントピアノを1台ずつ寄贈しました。6月には、ピアノのお披露目と学生への演奏機会の提供、そして父母の会への感謝の気持ちを込めて、各所で演奏会が行われました。

6月13日(日)に「APUクレオハイツ」で行われた演奏会では8個人・団体が出演しました。ピアノの演奏だけでなく、学生の音楽団体「音楽屋さん」も参加し、フルートやクラリネットなどのアンサンブルも披露されました。演奏者と観客の距離が近く、曲の披露に加えて一人ひとりの演奏者が音楽に対する思いを観客に語りかけるという、とてもアットホームな進行となりました。休日に開催されたため、父母の会からも委員が列席し、学生の美しい演奏に耳を傾けていました。

6月16日(水)に行われた「APハウス1」の演奏会では、初めに学生部副部長の金先生から、父母の会へのお礼と音楽を通じた学生交流の一層の発展を期待するとの開会挨拶を頂きました。その後、12個人・団体が出演し、見事な演奏を披露しました。1階ラウンジで開催されたため、授業を終えて帰宅して来る寮生が次々に聴衆の輪に加わり、会場から溢れんばかりの人々が美しい音色に心を休めていました。最後はSMAPの「世界に一つだけの花」を来場者と演奏者が合唱し、お披露目会は幕を閉じました。

また当日は、父母の会からDVD機器もAPハウス1および2に1台ずつ寄贈されました。

以降、定期的に各学生の音楽団体や有志がAPハウスを拠点にコンサートを行い、音楽を通じた交流が育まれています。

「毎週1回の練習の際には、ビデオを利用して、基礎の確認をしています。イベントが近くなると、全体を通じた演技を撮影し、本番に備える必要があるので、とても頻繁に利用しています。自分たちの技術の向上に、ビデオは大変役立っています。寄贈してくださって、どうもありがとうございました。」(立命館アジア太平洋大学チアリーダー部 LILIES)



▲ビデオ(チアリーディング部の使用風景)



▲バスケットボール



▲アンプ



▲パソコン(パソコンを利用する校友会メンバー)

父母の皆様よりお問合わせいただきご質問について、主なものをまとめて紹介いたします。

アカデミック・オフィス (教学・留学) 関連

<p>Q 交換留学・自費留学・語学留学などの、期間・費用・留学先などについて教えてください。</p>	<p>A 会報の11ページから12ページをご覧ください。</p>
<p>Q 交換留学の選考は成績順でしょうか。英語力がなければダメでしょうか。留学して語学力をつけてほしいのですが。</p>	<p>A 交換留学は、派遣先の大学へ正規生として学ぶ制度のため、現地の大学生と共に授業で学べるだけの語学力が応募段階から求められています。この条件は受け入れ大学(派遣先大学)が決定しています。選考に当たっては、語学力、成績だけでなく、志望理由や留学先での学習計画を審査(書類審査と面接審査)しています。語学力をつけるプログラムに関心をお持ちの場合、夏・冬セッション中に実施している海外言語研修の参加をお勧めします。</p>
<p>Q 夏休み等の短期語学研修に関心があります。</p>	<p>A 夏・冬セッション時の海外言語研修は、アカデミック・オフィスにて学生へお知らせしています。募集時期は毎年6月・11月頃となっています。</p>
<p>Q 今年度1年生よりTOEFL500点のクリアが必須になりましたが、それに対するカリキュラムの対策等を教えてください。</p>	<p>A 英語教育内容の標準化とテキストの開発を行っています。また、英語教育の相談体制の充実も図っています。これにより、正課の英語授業でTOEFL500点を達成できるよう工夫をしています。加えて、課外講座としてTOEFL対策講座も実施していますので、合わせて受講することも可能です。</p>
<p>Q 1回生なのですが、英語の上級クラス(英語Ⅲ)の単位も修得済みです。英語力をもっとつけさせたいのですが、何か方法がありますか。</p>	<p>A より高度な英語科目として「メディア英語」、「ビジネス英語」、「通訳英語」等の受講が可能です。また本学では多くの科目を英語および日本語で開講していますので、言語能力の向上度合いを踏まえて随時、英語で開講している科目を履修することにより、英語能力の向上に努めるようにしてください。</p>
<p>Q 履修登録について 希望するクラスが定員オーバーで受講できないことがあります。</p>	<p>A APUでは、日常的に学習することを重視しており、授業も一方通行の講義ではなく、学生のプレゼンテーションやディスカッションを積極的に取り入れています。そのため、登録者数を最大でも250名に制限しています。そのため、登録の制限を設けています。かつては、定員を超過した場合、抽選で受講者を決定していましたが、「運」により登録が決まること、抽選漏れになった場合は別の科目に登録することになりますが、最初の数回の授業に出席できなくなるなどから、現在の成績区分による先着順の登録に改めています。</p> <p>履修登録は以下の通り成績に従って3段階に分けています。 例:2004年春セメスターの成績</p> <ul style="list-style-type: none"> ①一番最初に優先登録できる学生(GPA3.0以上)・・・学生全体の27% ②二番目に優先登録できる学生(GPA2.6以上)・・・学生全体の19% ③一般登録期間に登録する学生・・・学生全体の54% <p>平均より上、上位46%の成績なら、優先登録の権利がありますので、少数の優秀層だけを優遇している措置ではないことを理解いただきまますと幸いです。</p>
<p>Q 履修科目登録は成績の良い方からと聞いていますが、できることなら平等に機会を与えていただけたらと願っています。</p>	<p>また、この成績による優先登録は、「入学以降の通算の成績」と、「直前のセメスターの成績」のいずれかで基準をクリアすれば権利が与えられます。つまり、これまで成績が芳しくなかった学生でも、直前の1セメスターのみを頑張れば、優先的に登録する権利があります。また、もともと成績が良い場合は、1セメスターだけ悪い成績でも影響を受けにくいようになっています。このように、意欲ある学生を励ます、頑張った学生に幅広く報いる制度として機能していますので、父母の皆様にもご理解賜りたく存じます。</p>
<p>Q 学外から履修登録を行う際、接続が難しい時があります。履修登録の方法を、パソコン以外で行うことは出来るのでしょうか。</p>	<p>A 学外からの履修登録の場合は、接続できる環境に左右されますが、レスポンスが遅いという点については主要因は多くの学生が同時にアクセスすることによる回線および登録受付のコンピュータの混雑が原因です。今年度より学内のネットワークを高速にするとともに、受付コンピュータの処理能力の向上を行っています。</p> <p>APUでは、全ての授業に出席できる条件を確保するため、登録完了後に授業を開始しています。日本の多くの大学では、授業開始後に登録するため、最初の数回の授業はお試し期間のような状況です。APUでは、教育の質の維持・向上のためには1回目の授業から出席できる条件を確保することが重要と考えています。これを実現するためには、パソコンを利用した登録方法をとらざるを得ません。レスポンスの改善については、学生のみなさんの要望をふまえて、ネットワーク環境の整備を計画的に行いたいと考えています。</p>
<p>Q 夏セッション・冬セッション開講科目とはどのようなものですか。</p>	<p>A APUでは4ヶ月程度の春・秋セメスター(学期)に加え、夏セッション(8,9月)および冬セッション(2,3月)時期にも科目を開講しています。セッション科目の特色は、15回の講義を1週間で集中して行う点です。この短期集中開講により、著名な活動をしている他大学の教員や、ビジネスなどの最前線で活躍されている教員が、APUで科目を担当することも可能となります。なお科目により割合は異なりますが、レポートや試験を実施して成績を評価しています。</p>
<p>Q 教職課程は、今後開設されますか。</p>	<p>A 教職課程については設置の検討を行っております。ただし、学部の学問系統から免状の種類が決まるため、現状では社会・地歴の免状以外は困難です。APUの特色と学生の要望、社会的な教員需要から考えた場合、英語の免状も取得できることが重要と考えています。</p>

アカデミック・オフィス (教学・留学) 関連

<p>Q 英検・TOEIC・漢検・数検などの資格試験は、APUを会場に受験できますか。</p>	<p>A 学生がキャンパスで学習成果を客観的に把握できることはたいそう重要と考えています。そのため大学としてもキャンパスを各種試験会場としていただけるよう継続的に働きかけていきます。なおTOEFL/ITP、TOEIC/IP、JETROビジネス日本語能力テスト、ハングル能力検定試験については、既に本学で試験を受けることが可能となりました。</p>
<p>Q 水曜日に開講される授業が少ないのはなぜでしょうか。</p>	<p>A 水曜日の午前中につきましては他の曜日と同様に授業を開講しています。ただし各種講演会の実施や、学生の課外活動、学生相互交流の時間を提供するため、午後は原則として授業を置いていません。APUの多文化・多言語環境を活かし、正課外での学生の交流を促進することは、異文化理解や国際性の涵養、学生の成長にとって非常に重要なことと考えております。そのための活動の時間を確保するために、水曜日の午後に授業を入れておりません。</p>
<p>Q 各授業の間の休み時間が15分なので、昼休みの時間を設けて欲しいと思います。</p>	<p>A 大学としては、昼前後の2時間目または3時間目を昼食のためあけることが出来るよう、必修科目や履修指定科目については、2・3時限に連続しないように時間割編成を行っています。朝から夕方までの限られた時間の中で、より多くの科目を提供し、学生が受講できるようにするため、昼休みを設けない時間割としています。大学としては、昼の休憩を取る場合は、2時間目または3時間目を空けるようガイダンス等で学生に指導しております。</p>
<p>Q 親元を離れ、子供の様子がわかりません。単位を落としているようで3回生になれるのかどうか心配です。進級が難しい時には早めに連絡は入るのでしょうか。</p>	<p>A 本学では、修得単位数に拘らず上回生へ進級していきます。単位が取れていない理由は、学校に足を運びづらい、授業に出席する気持ちがない、勉強方法が分からないなどさまざまな理由が考えられます。まず、お客様の生活状況を伺い、どのような原因に帰するものか、しっかり話し合ってください。親の会の会員には、ご子弟の成績を説明書類と合わせてお送りさせていただきますので、ご参照ください。学生生活面で心配な点がありましたらチューデント・オフィスへ、学修面ではアカデミック・オフィスへご相談ください。</p>

スチューデント・オフィス (学生生活) 関連

<p>Q 自動車通学を許可して欲しい。</p>	<p>A 駐車スペースが確保できないこと、開学時に渋滞と事故の増加を危惧した近隣住民の方々より自粛申し入れがあったことからの2つの理由から、病気等の特別な理由を除いて自動車通学は禁止としています。ご理解をお願いします。大学とバス会社では開学前より定期的に協議をおこなっており、通学ピーク時の増便や半年定期とほぼ同額の1年定期、3枚1000円チケットの設定などをバス会社の協力により実現してきました。しかし、ご指摘のとおりまだまだ課題も残されていますので、今後も継続して協議をおこなってまいります。</p>
<p>Q 通学のバスに対して、定刻どおりの運行でなかったり、満席で乗れないケースがあるようです。</p>	
<p>Q バスの運転手によって、満席時の乗客への対応に差があります。バス会社に改善をお願いします。</p>	<p>A バスの運行に関わるトラブルや問題があった場合には、すぐにスチューデント・オフィスまでお知らせください。内容を確認のうえ、対応をおこないます。</p>
<p>Q バスの年間割引の販売期間について教えてください。</p>	<p>A 春・秋の入学式期間に学内で販売されております。期間外、また学外では販売されておりませんのでご注意ください。</p>
<p>Q 現在APハウスに入っているが、来年2月退寮の際、別府市内で適当なアパート・マンションはどのように探せば良いでしょうか。</p>	<p>A 学内に、別府市内のアパート情報を提供する(株)クレオテックがございますのでご利用ください。電話：(0977)78-1162 FAX:(0977)78-1163 ホームページ：http://www.creotech.co.jp/apu/index.html</p>
<p>Q クレオハイテックから大通りまでの道路が、暗いと感じています。街灯を多くつけていただけるよう、市の方に働きかけをお願い致します。</p>	<p>A 建設当初より、別府市に対して街灯の増設を要請していますが、現在の街灯設置数が市の基準を満たしていること、照度を上げることが、近隣住民の迷惑になる可能性があるなどの理由で実施されていません。今後も大学として引き続き交渉をおこなう予定です。</p>
<p>Q ホストファミリーの受け入れは、どのように届け出れば良いのでしょうか。</p>	<p>A お手数ですが、スチューデント・オフィスまでご連絡をお願いします。詳細についてご説明させていただきます。電話:(0977)78-1124</p>

メディアセンター (図書) 関連

<p>Q 書籍の購入費用が多額になるため、レポート作成学習用の書籍を買ってください。</p>	<p>A APUの蔵書は現在約8万冊あります。蔵書の増加を急速に進めており、昨年度ならびに今年度の図書購入予算はそれぞれ1億円を計上し、重点的かつ計画的に充足を進めています。参考図書は多くの学生が大挙してリクエストするため順番待ちする事態が発生しております。この問題を解消するために、次年度より参考図書専門の閲覧室としてリザーブコーナーを導入し改善を図っていきたく思います。また、昨今の情報化により、雑誌や論文はデータベース化が進行しており、冊数の充実と合わせ、このオンラインデータベース化も進めています。今年度、新たに、JSTOR、WDIを導入し、現在14の電子ジャーナル、22のオンラインデータベースが使用できます。今後も利用者サービスの拡充に努めていきたいと存じます。</p>
<p>Q 各授業で先生が指定する参考図書の中に、廃刊のものがあり、買い求めようにも書店にも在庫がなかったようです。図書館の蔵書も貸し出し待ちでした。その科目を履修している学生のみなが読めるよう、改善をお願いします。</p>	
<p>Q 図書館がもっと充実するとさらにいいと思います。</p>	

キャリア・オフィス (就職・インターンシップ) 関連

<p>Q 就職が決まっても、単位が揃わずに卒業できない場合、内定は取り消されるのでしょうか。</p>	<p>A 内定を得ても、卒業に必要な単位を満たさなかった場合は卒業できません。企業も、学生の卒業を前提条件として内定を出しています。したがって卒業が出来なかった場合は、同時に企業の内定も取り消されるケースが大多数です。 そのため、3年生終了までに計画的な単位修得を行う必要があります。特に、3年生終了時点で80単位以上修得できていない場合(春入学者の場合)、「卒業見込証明書」が発行されませんのでご注意ください。</p>
<p>Q 第一子のため就職活動に不案内なのですが、大分で就職を希望しています。どういう手順で始めれば良いのでしょうか。</p>	<p>A 就職活動のスケジュールについては、会報7ページをご覧ください。 3年生を対象として、まず7月に第1回就職ガイダンスが開催されます。その後、就職ガイダンス・筆記試験模試・各種就職企画が随時キャリア・オフィスから学生へ告知されます。学生は、必ずキャリア・オフィスのWebページ・学内掲示板・キャンパスターミナルを確認し、常に最新の情報収集を心がけてください。 キャリア・オフィスでは、専任の職員が常駐し、学生の皆さんの就職活動を全面的に支援しております。就職活動で分からなかったり悩んだりした時には、個別に対応しますので是非訪問して下さい。</p>
<p>Q 新設大学ですが、学校に求人票は来るのでしょうか。</p>	<p>A 多くの企業様から関心を寄せていただいております。全国からAPU宛に多くの求人票をいただいております。また、APUと立命館大学は双方の求人票をお互いに共有しているため、学生に提供することのできる求人票は非常に多くの数となります。</p>
<p>Q 関西での就職状況を知りたいと思っています。</p>	<p>A 就職を希望している学生全体の約4分の1が関西で就職しております。また、いただいている求人票のうち約3分の1は関西圏からの求人票であるため、関西での就職を希望する学生は多くの機会を得る事ができます。</p>
<p>Q 秋入学者の就職は不利なのでしょうか。</p>	<p>A 秋卒業だから有利・不利ということはありません。もっとも大切なのは、自分がいつから働き始めるのか、そのためにはどのようなスケジュールで就職活動を進めるのか、事前に十分な準備を行うことです。多くの秋卒業生の就職活動スケジュールは、半年前に入学した春入学の学生と同じ採用スケジュールで活動していきます。 日本の企業の多くは入社を4月としています。一方で通年採用の広がりによって秋に採用を行う企業も増えていきます。 本学では秋卒業で志望する企業から内定を得た学生が多くいます。分からないことがあれば、キャリア・オフィスへ相談ください。</p>
<p>Q 成績と就職の関係を伺いたのですが。</p>	<p>A 必ずしも成績の良い学生が就職に有利だとは限りません。採用・選考は人物重視で行われていますので、勉強など日々の努力を怠らず、学生時代に何をしたかということが非常に重要です。</p>
<p>Q 就職活動する学生への支援の枠を広げて欲しい(例えば東京の宿泊援助など)。</p>	<p>A 父母の会を始め多くの方々の支援により、就職活動に必要な交通費・宿泊費の支援、ならびに企業のご協力による宿泊施設等の支援を学生に行っていますが、まだ十分なものとは言えません。今後、より多くの支援を行っていきけるよう、働きかけていく所存です。</p>
<p>Q 昨年の卒業生の就職状況、内定企業を教えてください。</p>	<p>A キャリア・オフィスのwebページ(http://www.apu.ac.jp/careers/)にも第1期生の就職内定先を掲載しており、今後も随時新たな内定先企業を掲載していきます。</p>

アドミニストレーション・オフィス (学費・施設) 関連

<p>Q 入学式に参列したのですが、席の数が足りなかったため、場所を変える事も考えてみてはどうでしょうか。</p>	<p>A 現状、入学式後のオリエンテーション日程の関係から学内で最大のミレニアムホールで実施しております。学生、父母の皆さんの要望を踏まえ、検討いたします。</p>
<p>Q カフェテリア・食堂の充実を要望しています。</p>	<p>A APUの地理的条件から、食生活の充実にとってカフェテリア・食堂のメニューは重要であると認識しております。食堂を運営する生活協同組合においても「一言窓口」で意見を集約しておりますが、大学としても協力してよりよい食堂をめざして協議を進めてまいります。具体的な要望がありましたらお聞かせ下さい。</p>
<p>Q 毎回、授業料の振込みのために仕事を休んで遠くの銀行へ行き、手数料(¥840)を払うのは改善できませんか。</p>	<p>A 2005年度より、郵便局の自動払込の利用が可能になります。詳しくは2月にアドミニストレーション・オフィスより送付した説明文をご参照下さい。また、ご不明な点はアドミニストレーション・オフィスにお問い合わせ下さい。</p>
<p>Q 授業納付書が毎回15日過ぎに郵送され、その後銀行ローン契約するので日程にゆとりがありません。もっと早く(月初め)に送付して頂けないでしょうか。</p>	<p>A 納付書案内からの期間が短く、ご迷惑をおかけしています。APUの学費制度が固定学費と単位制学費を採用していること、また、授業を1回受講できる機会を設定してから登録、学費額の確定を行っていること等により、納付期限のギリギリまで納付書発行が出来ない状態にあります。可能な限り早く納付書を送付出来るように学内で努力したいと考えておりますが、抜本的に変えられる見通しは現状では持ちえておりません。次年度の学費案内文書でローンの手続きをすすめていただくことができないか、一度ご相談いただけないでしょうか。困難なようでしたらアドミニストレーション・オフィスにご連絡下さい。</p>

2005年度学年暦 (2005.4~2006.3)

4 <i>April</i>	<ul style="list-style-type: none"> ● 4月1日 (金) 入学式 ● 4月4日 (月) オリエンテーション(8日まで) ● 4月11日 (月) 春セメスター開講日、春第1クォーター開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 4月23日 (土) 補講日 ● 4月29日 (金) <みどりの日>*授業日
5 <i>May</i>	<ul style="list-style-type: none"> ● 5月3日 (火) <憲法記念日>*授業日 ● 5月4日 (水) <国民の休日>*授業日 ● 5月5日 (木) <子どもの日>*授業日 ● 5月7日 (土) 補講日 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5月21日 (土) 補講日 ● 5月28日 (土) 補講日 ● 5月30日 (月) 春第1クォーター試験期間 (6月1日まで)
6 <i>June</i>	<ul style="list-style-type: none"> ● 6月2日 (木) 授業なし (6月3日まで) *一部の科目のみ授業を実施 ● 6月6日 (月) 春第2クォーター開始 ● 6月18日 (土) 補講日 	
7 <i>July</i>	<ul style="list-style-type: none"> ● 7月2日 (土) 補講日 ● 7月16日 (土) 補講日 ● 7月18日 (月) <海の日>*授業日 	<ul style="list-style-type: none"> ● 7月25日 (月) 春第2クォーター試験期間 (29日まで)
8 <i>August</i>	<ul style="list-style-type: none"> ● 8月1日 (月) 夏セッション開始 夏セッションⅠ開講 (8月5日まで) ● 8月8日 (月) 夏セッションⅡ開講 (8月12日まで) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 8月22日 (月) 夏セッションⅢ開講 (8月26日まで) ● 8月29日 (月) 夏セッションⅣ開講 (9月2日まで)
9 <i>September</i>	<ul style="list-style-type: none"> ● 9月2日 (金) 卒業合否発表 ● 9月13日 (火) 春セメスター成績発表・履修科目登録ガイダンス ● 9月16日 (金) 卒業式 ● 9月20日 (火) 春セメスター終了 	<ul style="list-style-type: none"> ● 9月21日 (水) 入学式、秋セメスター開始、オリエンテーション (9月30日まで) ● 9月23日 (金) <秋分の日> (授業なし)
10 <i>October</i>	<ul style="list-style-type: none"> ● 10月3日 (月) 秋セメスター開講日・秋第1クォーター開始 ● 10月10日 (月) <体育の日>*授業日 ● 10月15日 (土) 補講日 	<ul style="list-style-type: none"> ● 10月29日 (土) 補講日
11 <i>November</i>	<ul style="list-style-type: none"> ● 11月3日 (木) <文化の日>*授業日 ● 11月12日 (土) 補講日 ● 11月21日 (月) 秋第1クォーター試験期間 (11月23日まで) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 11月23日 (水) <勤労感謝の日>秋第1クォーター試験終了 ● 11月24日 (木) 授業なし (11月25日まで) *一部の科目のみ授業を実施 ● 11月28日 (月) 秋第2クォーター開始
12 <i>December</i>	<ul style="list-style-type: none"> ● 12月10日 (土) 補講日 ● 12月23日 (金) <天皇誕生日>補講日 ● 12月24日 (土) 授業なし (1月5日まで) 	
2006 1 <i>January</i>	<ul style="list-style-type: none"> ● 1月6日 (金) *授業日 ● 1月7日 (土) *授業日 (1月9日分の授業) ● 1月9日 (月) <成人の日> (授業なし) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1月21日 (土) 補講日 ● 1月28日 (土) 補講日 ● 1月30日 (月) 秋第2クォーター試験期間(2月3日まで)
2 <i>February</i>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2月6日 (月) 冬セッション開始 冬セッションⅠ開講 (2月10日まで) ● 2月11日 (土) <建国記念の日> (授業なし) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2月13日 (月) 冬セッションⅡ開講 (2月17日まで) ● 2月20日 (月) 冬セッションⅢ開講 (2月24日まで) ● 2月27日 (月) 冬セッションⅣ開講 (3月3日まで)
3 <i>March</i>	<ul style="list-style-type: none"> ● 3月3日 (金) 卒業合否発表 ● 3月17日 (金) 卒業式 ● 3月23日 (木) 秋セメスター成績発表・履修科目登録ガイダンス ● 3月31日 (金) 秋セメスター終了 	

*この学年暦は予定ですので変更される場合があります。ご了承ください。

●APUのオフィス案内



【スチューデント・オフィス】

TEL 0977-78-1124/FAX 0977-78-1125

学生生活の援助、奨学金、学生行事、APUハウスの管理運営、ヘルスクリニック、アルバイトの紹介、証明書発行、休学・復学・退学などに関すること

【キャリア・オフィス】

TEL 0977-78-1128/FAX 0977-78-1129

進路、就職、インターンシップ、エクステンション講座に関すること

【アカデミック・オフィス】

TEL 0977-78-1122/FAX 0977-78-1123

学修相談、カリキュラム、定期試験、学年暦、卒業式、休日、休講・補講に関すること、留学、海外言語研修に関すること

【言語インスティテュート・オフィス】

TEL 0977-78-1101/FAX 0977-78-1123

英語教育に関すること、課外講座 (TOEFL・TOEICの運営) に関すること

【メディアセンター】

TEL 0977-78-1140/FAX 0977-78-1141

APUライブラリー、学術情報、情報システムに関すること

【アドミニストレーション・オフィス】

TEL 0977-78-1112/FAX 0977-78-1109

総務全般、入学式、学費の納入方法に関すること

【ネットワーク・オフィス】

TEL 0977-78-1114/FAX 0977-78-1113

国内学生父母の会直通番号:0977-78-1144
学内外の広報、APU-Club・国内学生父母の会、校友会に関すること

【リサーチ・オフィス】

TEL 0977-78-1134/FAX 0977-78-1135

大学院・研究に関すること

【アドミッションズ・オフィス】

TEL 0977-78-1120/FAX 0977-78-1121

国内外の入試に関すること

【ディベロップメント・オフィス】

TEL 0977-78-1107/FAX 0977-78-1113

調査企画および業務開発に関すること

APU-Club・国内学生父母の会

〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1 <http://www.apu.ac.jp/>

TEL:0977-78-1144 FAX:0977-78-1113

メールアドレス: ml-fubokai@ml.apu.ac.jp

●「APU-Club・国内学生父母の会だより」についてのご意見、ご感想、事務局へのご要望などをお寄せください。



立命館アジア太平洋大学